

3720  
75

# 社會主義神髓

幸德秋水著

(三版)

東京

朝報社發行

039572-000-6

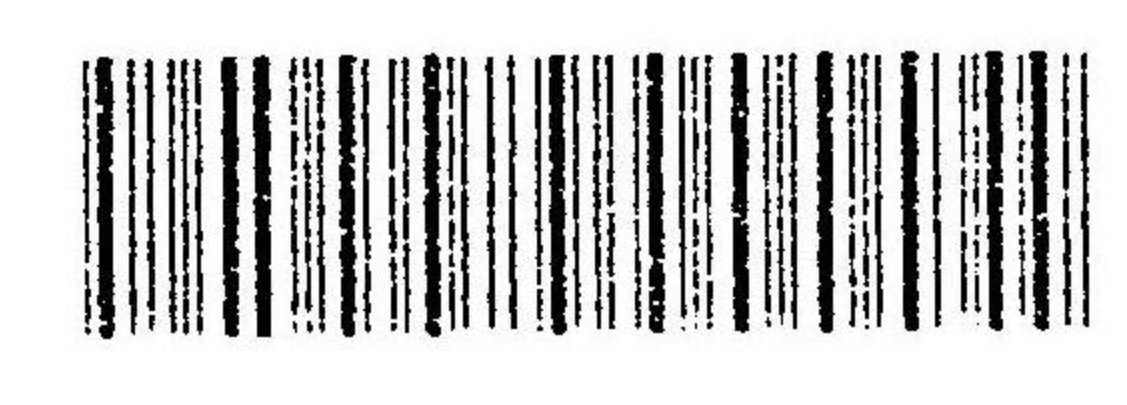
特70-397

社會主義神髓

幸德 秋水/著

M36.9

BDA-0143



特70<sup>1</sup>  
397

*S. Itoh.*

幸德秋水著

社會主義神髓

東京

朝報社發行

自 序

『社會主義とは何ぞ』是れ我國人の競ふて知らんと欲する所なるに似たり、而して又實に知らざる可らざる所に屬す予は我國に於ける社會主義者の一人として、之れを知らしむるの責任あるを感ずるが故に、此書を作れり。

近時社會主義に關する著譯の公行する者、大抵非社會主義者の手に成り、往々獨斷に流れ、正鵠を失す、其然らざるも或は僅に其一部を論し、或は單に一方面を描くに過ぎず、而して浩瀚の者は却つて煩冗に過ぎ、短簡なる者、亦要領を得難きの憾み有り、是を以て予は本書に於て、勉めて枝葉を去り、細節に拘せず、一見明白に其大綱を了會し、要義に透徹せしめんとを期せり。世間未だ社會主義の何たるを知らざるの

士之に依て、所謂『鳥眼觀』<sup>バウアイズビュー</sup>を做すとを得ば、幸ひ甚し。蓋し著述の難きは徒に紙數を多からしむるに在らずして、實に次序の體を得せしむるに在り、材料を豊にするに在らずして繁簡の中を得せしむるに在り。本書固より翻々の小冊なりと雖も、而も稿を代ふると十數回、時を費す半年の久しきに及びて遂に意に滿つる能はず、慚愧何ぞ堪へん。但だ予の不才之を奈何ともするなくして、而して江湖の社會主義を知らんとする者、益々急なるを見て、忍んで劖劒に付するを爲せり。故に本書説く所に關し、反對の意見若くば疑問を以て質さるゝの人あらば、予は喜んで更に之が答辯説明の責に任ず可し。

本書執筆の際、參照に資せしは、

MARX, K. & ENGELS, F. Manifesto of the Communist Party.  
MARX, K. Capital: A Critical Analysis of Capitalist Production.  
ENGELS, F. Socialism, Utopian and Scientific.  
KINKOP, T. An Inquiry into Socialism.  
ELDY, R. Socialism and Social Reform.  
BRUSS, W. A Handbook of Socialism.  
MORRIS, W. & BAX, E. B. Socialism: its Growth and Outcome.  
BRUSS, W. The Encyclopedia of Social Reforms.  
等の數種也。初學少年の爲めに特に之を言ふ。  
明治三十六年六月 著 者

社 會 主 義 神 髓

社 會 主 義 神 髓

目 次

第一章	緒 言	.....	一
第二章	貧困の原因	.....	一二
第三章	産業制度の進化	.....	二四
第四章	社會主義の主張	.....	五〇
第五章	社會主義の效果	.....	七四
第六章	社會黨の運動	.....	九六
第七章	結 論	.....	一〇九

附 錄

社會主義と國家	.....	一一五
---------	-------	-----

"Let the ruling classes tremble at a  
Communist revolution. The proletarians  
have nothing to lose but their chains.  
They have a world to win. Working men  
of all countries unite!"

目次

社會主義と直接立法	一三〇
社會主義と國體	一三八
社會主義と商業廣告	一三三
社會主義と婦人問題	一四三

社會主義神髓

幸徳秋水著

第一章 緒論

○クロムウエルと言ふと勿れ、ワシントンと言ふと勿れ、ロベスピエールと言ふと勿れ、若し予に質すに古今最大の革命家を以てする者あらば、予は實にゼームス・ワット其人を推さずんばあらず。彼れ夫れ一たび其精緻の頭腦を鼓して造化の秘機を捉來し、之を人間の眼前に展開するや、世界萬邦物質的生活の状態は、俄然として爲めに一變を致せるに非ずや。嗚呼彼所謂殖産的革命の功果や眞に偉なる哉。

○蓋し今の紡績や、織布や、鑄鐵や、印刷や、其他百般工技の器、鐵道や、汽船や、其他百般交通の具之を望めば恰も魍魎の如く、之に就けば恰も山嶽の如く然り。而して此等の機器の常に自在に驅使せられ、無礙に運轉せらるゝもの、唯だ蓬々然たる蒸氣一吹の力に由れることを思ふ、其術何ぞ爾く巧にして其能何ぞ爾く大なるや。若し十八世紀中葉の人類を地下に起して以て今日を觀せしめば、應に呀然として駭絶驚倒すべきや必せり。況んや之に次ぐに電氣發明の奇と其應用の妙、刻々に新なるを以てするに至つて、人智の窮極する所、眞に測る可らざる者有り、予は萬物の靈長の語、於是始めて始めて驗有るを覺ゆ。

○然れども此等機器の發明及び其改善に由て打成せる所

謂殖産的革命の貴尙すべき所以の功果は、獨り其技の巧且つ妙なるに在らずして、實に其殖産の饒多に、其交換の利便なるに在らざる可からず。

○蓋し近時生産力發達の程度及比率は、其産業の種類異なるに從つて差あるが故に、詳密精確の統計を得難しと雖も、而も機械が人力に代れるが爲めに、概して著大の増加を來せるや論なし。教授イリイは曰く、或種の産業は爲めに十倍せり、或種の産業は爲に廿倍せり、更紗の生産の如きは、優に百倍し、書籍販行の如きは優に千倍せりと。ロバート・オーエンは早く前世紀の初に於て公言して曰く、五十年前六十萬人の勞働を要せるの財富は、今や僅に二千五百人の力を以て生産し得べしと。而して爾後今日に至る迄百年間、更に



幾層の進歩ありしや、疑ふ可らず。某學士は亦曰く、近時の器械は一家五口の戸々に供するに、各々昔時六十人の奴隸の生産せしと同額の資財を以てするを得べしと。由是觀之、最近百餘年間に於て、世界の生産力が少くも平均十數倍の増加を爲せるは、何人も之を斷言するに躊躇せじ。

○而して是等饒多の財富が、世界各地に運輸され交換さるゝや、亦其自在と敏活とを極む。蛛網の如き鐵道航路は、以て坤輿を縮小すると幾千里、神經系統の如き電線は、以て萬邦を束ねて一體と爲す。濠洲に屠れる羊肉は直に英人の食膳に上る可く、米國にて作れる棉花は遍く亞細亞人の體軀を纏ふ。緩急の相依り、有無の相通する、有史以來實に今日より盛なるは莫し。

## 社會主義神髓

○嗚呼是れ實に所謂近世文明の特質也、美華也、光輝也。吾人生れて這個文明の民たるを得て、是等空前の偉觀壯觀を仰ぐ者、窃かに自ら慶し、且つ誇るに足る有るに似たり。

○然れども、吾人は近世文明の民たるに於て、眞に自ら慶す可き乎、眞に自ら誇る可き乎。否、是れ疑問也、然り大疑問也。

○試みに一考せよ、近時機器の助けあるが爲めに、吾人生産の力が十倍、百倍時としては千倍せるとは、即ち之れ有り。然らば則ち世界多數の勞働者は、殖産的革命の以前に比して、大に其勞働の時と量とを減し得可きの理也。而も事實は之に反す、彼等は依然として永く十一二時間乃至十四五時間、苛酷の勞働に服せざる可らざるは何ぞや、奇なる哉。

○又一考せよ、近時千百倍せる饒多の財富は、運輸交通の機

## 社會主義神髓

關の助けあるが爲に、世界の一隅より一隅に至る迄、自在敏活に分配貿易せらるゝとは、亦眞に之れ有り。然らば則ち世界多數の人類は、衣食大に餘り有りて、洋々太平を謳歌し得可きの理也。而も事實は之に反す、彼の口糟糠だにも飽かずして、父母は飢凍し、兄弟妻子離散する者、日に益々多きを加ふるは何ぞや、奇なる哉。

○人力の必要は省減せり、而も勞働の必要は減少せざる也。財富の生産は増加せり、而も人類の衣食は増加せざる也。既に勞働の苛酷に堪へず、更に衣食の匱乏に苦しむ。故を以て學校の設くる多くして、人は教育を受くるの自由を有せざる也。交通の機關便にして、人は旅行の自由を有せざる也。醫治の術進歩して、人は療養の自由を有せざる也。多數政治の

## 社會主義神髓

## 社會主義神髓

制ありて、人は參政の自由を有せざる也。文藝美術發達して人は娛樂の自由を有せざる也。而して所謂近世文明の特質や美華や、光輝や、如此にして多數人類の幸福、平和、進歩に於て、果して幾何の價值有りとする乎。

○言ふと勿れ人は麵包のみにして生きずと。衣食なくして何の自由あるとを得る耶、何の進歩あるとを得る耶、何の道徳あるとを得る耶、何の學藝あるとを得る耶。管敬仲云へる有り、倉廩實而知禮節と、所詮人生の第一義は即ち衣食問題也。而も近世文明の民たる多數人類は、實に衣食の匱乏の爲めに違々たるに非ずや。

○言ふこと勿れ勞働は衣食を生ずと。見よ彼の勞働せる人の子を、彼や生れて八九歳の幼時より其老衰病死に至る迄

## 社 會 主 義 神 髓

營々として牛馬の如く驅られ、兀々として蟻蜂の如く勞す、節儉にして勤勉なる、凡そ彼等に過ぐるは莫し。而して租稅滯納の爲めに公賣の處分に遭ふ者、年々數萬を以て算せらるゝ也。而して彼の衣食常に餘りある者は、常に勞働するの人に非ずして、却て徒手逸樂遊惰の人に非ずや。

○然れども其勞働の痛苦や、猶ほ可也。若し夫れ勞働す可き地位職業すら之を求めて竟に得ると能はざるに至ては、人生の慘事實に之より甚しきは莫し。彼や壯健の體軀を有す、彼や明敏の頭腦を有す、彼や有爲の技能を有す、而して其力能く衣食の生産に任じて餘り有る者にして、唯だ其職業を得ざるが爲めに、終生窮途に泣き溝壑に滾轉する者、世間果して幾萬人ぞ。

## 社 會 主 義 神 髓

○好し高利に衣食せよ、株券に衣食せよ、地代に衣食せよ、租稅に衣食せよ。今の所謂文明社會に處して然る能はざる者は、則ち長時間の勞働也、苦痛也、窮乏也、無職業也、餓死也、餓死に甘んぜずんば、則ち男子は強盜たり、女子は醜業婦たらんのみ、墮落あるのみ、罪惡あるのみ。

○然り今の文明や、一面に於て燦爛たる美華と光輝とを發すると同時に、一面に於て暗黒なる窮乏と罪惡とを有す。燦爛の天に翱翔する者は千萬人中僅に一人のみ、暗黒の域に滾轉する者は世界人類の大多數也。是れ豈に吾人人類の自ら誇るに足る者ならん哉。

○嗚呼世界人類の苦痛や飢凍や、日は一日より急に、月は一月より激也、人類の多數は唯だ其生活の自由と衣食の平等

とを求むるが爲めに、一切の平和、幸福、進歩を犠牲に供せずんば已まざらんとす。人生なる者は竟に如此き者耶、如此くならざる可らざる耶、耶蘇の所謂祖先の罪耶、浮屠の所謂娑婆の常耶、咄々豈に是れ眞理トリスならんや、正義ヂキスチスならんや、人道ヒューマニティならんや。

○嗚呼彼の偉大なる殖産的革命の功果は、竟に人道、正義、眞理に合す可らざる乎。所謂近世文明の世界は、遂に人道、正義、眞理を現す可らざる乎。是れ個の問題や二十世紀の陌頭に立てるスホンクスの謎語也、之を解決する者は生きん、否らざれば死せん、世界人類の運命は懸けて此一謎語に在り。

○誰か能く之を解決する者ぞ、宗教乎、否、教育乎、否、法律乎、軍備乎、否、否、否。

○夫れ宗教や以て未來の樂園を想像せしむ、未だ吾人の爲に現在の苦痛を除き去らざる也、教育や以て多大の智識を興ふ、未だ吾人の爲に一日の衣食を産出せざる也、法律や能く人を責罰す、人を樂ましむるの具に非ざる也、軍備や能く人を屠殺す、人を活かしむるの器に非ざる也、嗚呼、噫、誰か能く之を解決する者ぞ。

以貨財害子孫。 不必操戈入室。  
以學術殺後世。 有加按劍伏兵。

第二章 貧困の原由

○醫藥を投ずる者は、先づ其病源如何と診するを要す。借問す方、今生産の資財乏しきに非ず、市場の貨物尠きに非ずして、而も吾人人類の多數は、何が爲に爾く衣食の匱乏を感じる乎。

○他なし之が分配の公を失せるが爲めのみ。其世界に普遍せられずして、一部に堆積せらるゝが爲めのみ、其萬人に均分せられずして、少數階級に壟斷さるゝが爲めのみ。

○英米兩國の若き、其産業の進歩と隆昌とは、古來類例なき所にして、世界萬邦の俱に感歎垂涎する所也、而も彼等が富の分配の情狀に至つては、却て酸鼻を値する者あり。

社會主義神髓

社會主義神髓

○トーマス・シャマンは算して曰く、米國の富の七割は、實に其人口の一分四厘の少數の占有する所たり、而して他の一割二分の富は、僅に九分二厘の人口の爲に占有せられ、殘餘の人口即ち八割九分四厘の多數生民は、僅に一割八分の富を保つに過ぎずと、博士スパールが英國の富の分配を算するに曰く、英人二百萬の多數は僅に八億の財産を有するに過ぎざるに、一面に於て十二萬五千人の少數は、却て七十九億の巨額を占有す、且つ總人口の四分の三以上は全く無資産也と、而して是等兩國の窮民公費の救助を仰ぐ者、實に數百萬人の多きに及べり。

○是れ豈に驚く可きの偏重に非ずや、然れども唯に英米のみならんや、獨逸も然り、佛國も然り、伊國も然り、澳國も然り、

彼等各々其大小高低の度と率とを異にすと雖も、而も現時  
財富の一部に集中するは、世界萬邦俱に其趨勢を同じくせ  
る所也。而して我日本に於ても亦然らざるとを得ず。

○我國に於てや、凡そ何等の物と事とを問はずして、未だ精  
確の統計の信據す可きなきは遺憾の至也。然れども近時我  
國財富の分配が益々一部に偏重し、貧富益々懸隔するは争  
ふ可らざるの事實也。見よ、土地は益々兼併せらるゝに非ず  
や、資本は益々合同せらるゝに非ずや。彼の資本、資本を吸ひ  
息錢、息錢を生むや、國家人民全體の資産の額は甚だ増加を  
見ざるに拘らず、大資本家、大地主なる少數階級の資産は日  
に其膨張を致すと、恰も雪塊の一廻轉する毎に、自ら其面積  
を増大し來るに似たらずや。

## 社會主義神髓

## 社會主義神髓

○試みに思へ、若し近世物質的文明が、其精緻の器、巧妙の術  
に依り、年々産出する所の巨額の財富をして、多數人民公平  
に分配して、以て日用の消費に供するを得たりとせよ、何ぞ  
衣食の匱乏を嘆ずる今日の如きを要せんや。而も分配の公  
を失する如此く甚しく、其一部に堆積し、少數階級に壟斷せ  
らるゝ如此く甚し。怪しむ無き也、世界の多數が常に飢凍の  
域に滾轉するとや。

○於是乎、別に一問は提起せられざるを得ず、何ぞや。

○蓋し社會の財富や、決して天より降下するに非ず、地より  
噴出するに非ず、一粒の米、一片の金と雖も、總て是れ人間勞  
働の結果に非ざるは無し。夫れ唯だ労働の結果也、其結果や  
當然労働者即ち之が産出者の所有に歸す可きの理に非ず

や。而も多數の勞働者よ、何故に汝は汝の産出せる財富を自由  
に所有し、若くば消費すると能はざる乎。古詩に曰く「滿身  
綺羅者、是匪養蠶人」と、何故に養蠶の人は却つて綺羅を纏ふ  
と能はざる乎。

○他なし、彼等は一切の生産機關を有せざれば也。換言すれ  
ば即ち資本を有せざれば也。土地を有せざれば也。資本なき  
者は勞働すると能はざる也。土地なき者は勞働すると能は  
ざる也。勞働せざれば即ち餓死せざる可らず。彼等は其餓死  
を免るゝに急なる丈け、夫れ丈け、生産機關を求むるに急な  
らざるを得ず。其生産機關を求むるに急なる丈け、夫れ丈け  
一切の利益幸福を擧げて之が犠牲に供せざることを得ず。  
而して彼等は實に資本所有者、土地所有者の足下に拜跪し

## 社會主義神髓

## 社會主義神髓

て、資本と土地との使用の許可を乞はざる可からず。而して  
此使用の許可を得るの報酬として、其生産の大部を資本家、  
地主の倉庫に獻納せざるを得ず。而して彼等が終歲、若くば  
生涯、營々たる勞役の功果は、憐れむ可し、唯だ其不幸なる生  
命を支ふるに過ぎざるのみ。然り現時の小農及び小作人は  
實に如此きの状態に在り、現時の職工は實に如此きの状態  
に在り、土地と資本とを有するなくして、賃銀に衣食し、給料  
に衣食する者、皆な實に如此きの状態に在り。

○試に思へ、若し世界の土地と資本とをして、多數人類が自  
由に其生産の用に供するを得たりとせよ。彼等が多額の金  
利を徴せられ、法外の地料を掠められ、若くば低廉の賃銀を  
以て雇役さるゝの要なくして、其勞働の結果たる富財は直

ちに彼等の所有として、自由に消費するを得たりとせよ。分配公を失して、貧富の懸隔する、何ぞ今日の如く甚しきに至らんや。而も彼等は唯だ勞働の力を有するのみ。土地と資本との兩者に至つては、全く少數階級の專有に歸して、其生産の大部を納むるに非ざるよりは、決して使用するを許されざる也。怪しむなき也。世界の多數が常に飢凍の域に滾轉するとや。

○於是乎、更に一問は提起せられざるを得ず、何ぞや。

○夫れ土地や資本や、一切の生産機關は、人類全體を生活せしむる所以の要件也、之を壟斷し占有するは、即ち人類全體の生活を左右し、死命を制する所以也、彼地主資本家なる者果して何の徳あり、何の權利あり、何の必要あつて、之を壟斷

し、專有し、増大して、以て多數人類の平和と進歩と幸福とを蹂躪するや。

○他なし、僥倖のみ、猾智のみ、貪慾のみ。彼等地主資本家や、時に或は勞働に従ひ生産を扶くるなきに非ざる可し、勤勉なるとなきに非ざる可し、節儉なることなきに非ざる可し。然れども彼等が勤勉なる勞働者、節儉なる生産者としての所得や知るべきのみ。而して彼等が地主資本家として擁する所の財富や、決して勤勉と節約とに依て得可き所の者に非ざる也。彼等の或者は即ち父祖の讓與也、或者は即ち投機の勝利也、或者は即ち利息の堆積也。然り今の富厚を重ぬる者三者必ず其一に居らざるはなし。而して其富變じて資本となり、株券を買ひ、土地を併すや、彼等は一舉手一投足の勞な



## 社會主義神髓

くして、飽暖逸樂以て多數人類勞働の結果を掠奪す。而して其掠奪せる富は、更に轉じて資本となり、再び多額の富を掠奪するの武器となる。如此にして轉々窮る所を知らずして、而して少數者の富益々富を加へ、多數者の貧益々貧に陥るに至れる也。故にブルードンは叫んで曰く、『財産は強奪の結果也、資本家は盜賊也』と。然り道義的眼光より之を見る、彼等は實に自ら其盜賊たるを知らずして盜賊たる也。又何の徳あり、何の權利あり、何の必要ある者ならんや。而も吾人は是等道義的盜賊を放養して、以て其專恣掠奪に任ぜるに非ずや。怪しむなき也。多數人類が常に飢凍の域に滾轉せることや。

○於是乎吾人は現時社會の病源に於て、略ぼ知る所あるを

## 社會主義神髓

信ず。何ぞや、曰く、多數人類の飢凍は、富の分配の不公に在り、富の分配の不公は、生産物をして生産者の手に歸せしめざるに在り、生産物をして生産者の手に歸せしめざるは、地主資本家なる少數階級の掠奪する所となれば也。地主資本家の掠奪する所となるは、土地や資本や一切の生産機關をして初めより地主資本家の手中に占有せしむれば也。

○果して然らば之が治療の術亦實に知るに難からざる也。予は即ち斷言せんとす、今の社會問題解決の方法は、唯だ一切の生産機關を、地主資本家の手より奪ふて、之を社會人民の公有に移す有るのみと。

○然り、『一切の生産機關を地主資本家の手より奪ふて、之を社會人民の公有となす』者、換言すれば、地主資本家なる徒

手遊食の階級を廢滅するは、是れ實に『近世社會主義』一名『科學的社會主義』の骨髓とする所に非ずや。

○於是乎世間社會主義を熟知せざるの士、啞然失笑して曰はんとす、何等の囂語ぞ、何等の妄想ぞ、思へ社會の生産は一に地主資本家の左右する所に非ずや、其分配は一に地主資本家の指揮する所に非ずや、農工商經濟は總て彼等に依て維持せられ、多數人類は總て彼等の手に養はる。曷んぞ能く之を廢滅するを得んや、假に之を能くせしむるも、若し彼等微りせば社會は暗黒ならんのみ、而も漫に之が廢滅を言ふ、社會主義なるもの、抑も何等の妄想囂語ぞやと。

○嗚呼囂語乎、妄想乎、社會は永劫に地主資本家の存在を是認す可き乎、是認せざる可らざる乎、吾人は此等の言を爲す

社會主義神髓

の人に向つて、先づ人類社會の組織し進化する所以に就て、一番の討查を請はざる可らず。

爭之雖平也。天折地絕。亦無自屈之期。

假之不已也。鬼哭神愁。奚有相安之日。

社會主義神髓

## 第三章 産業制度の進化

## 社 會 主 義 神 髓

○近世社會主義の祖師カル・マルクスは、吾人の爲めに能く人類社會の組織せらるゝ所以の真相を道破せり。曰く『有史以來何の時、何の處とを問はずして、一切社會の組織せらるゝ所以の者は、必ずや經濟的生産及び交換の方法、之が根底たらざるは無し、而して其時代エポカの政治的及び靈能的スピリチュアル歴史の如きは、唯だ此根底の上に建てる者にして、亦實に此根底よりして始めて解釋することを得べき也』と。

○然り、人の生れて地に落つ、先づ食はざるを得ず、衣ざるを得ず、雨露風雪を防がざるを得ず。夫の美術や、宗教や、學術や、唯此最初の要求の満足せらるゝ有りて、而して後ち始めて

## 社 會 主 義 神 髓

發展することを得べきのみ。故に其人民が一たび生産交換の方法を異にするに至るや、其社會の組織歴史の發展、亦從つて其状態を異にせざるを得ず。

○見よ、太初の人類たる、縦鼻横目、吾人の人類たるに於て、果して幾何の差異ありしとするぞ。而も彼等の血族相集り部落相結びて、共產の社會を成すや、其衣食や、唯其社會全體の爲めに生産し、社會全體の需用に充つるのみ。又個人あるを知らざりし也。階級あるを知らざりし也。況んや地主なるものをや、資本家なるものをや。レウイス・モルガンは算して曰く、人類社會有つて以來、始と十萬年、而して其九萬五千年は實に共產制度の時代なりきと。吾人人類は實に此九萬五千年間地球上に點々散布せる血族的部落的の小共產制度の

時代に於て、實に蠢爾たる野獸の域を脱却し、弓矢を製し、舟楫を製し、牧畜を解し、農業を習ふの進化變遷を経るとを得たりしなりき。

○夫れ文明の進歩は、石の地上に落るが如し、落る益々低くして、速度益々加はる。古代人口の漸く増殖し、團聚漸く繁榮し、衣食の需用亦漸く多大に、交換の方法従つて複雑なるに従つて、是等共產の制度は亦漸く傾覆の運に向へり。而して彼等が其曾て生擒し屠殺せる敵人を宥して、之を生産的に使役するや、即ち奴隸の一階級を生じて、更に人類社會の歴史に於て、全く一大段落を劃し來れる也。

○嗚呼奴隸の制度、今や吾人の口にするだも愧る所なりと雖も、而も當時に在てや、特に全社會産業の基礎たるのみを

## 社 會 主 義 神 髓

## 社 會 主 義 神 髓

らず、彼埃及、アッシリアの智識や、希臘の藝術や、羅馬の法理や、其千載の歴史を照耀するを得たる者、實に是等愛々たる億萬奴隸が淋漓の膏血なりしと知らずや。然り當時の文明を致せる者は、是等産業の制なりき。而して當時の文明を覆へせるも、亦實に是等産業の制なりき。花を催すの雨は是れ花を散ずるの雨たらざるを得ざりき。

○見よ、是等奴隸の膏血と其天然の富源も、亦一日涸渴に至らざるとを得ず。而して羅馬末年の莫大なる淫逸驕奢の資遂に之に依て辨ずるに足らざるに及んで、四方の攻伐は次がり、領土の擴張は次がり、貢租の誅求は次がり、而して外正に叛くの時、内既に潰ゆるの日なりしに非ずや。

○於是乎羅馬に通ずるの大道は、荆棘の叢となれり、天下瓜

## 社 會 主 義 神 隨

分して産業全く萎靡す。次で起る者は即ち農奴の耕織ならざるを得ざりき。之を保護する者は即ち封建の制度ならざるを得ざりき。然れども代謝は少時も休せず。經濟的生活の遷移すると一日なれば、社會の組織亦進化する一日ならざるを得ず。而して自由農工は生ず、城市の繁榮は次ぐ、農奴の解放は來る、交通の發達し、市場の擴大し、殖産の増加する、愈々急速を加ふ。而して地方的封建の藩籬は、遂に國民的及び世界的貿易の大潮流を抗制するに堪へずして、自ら七花八裂し去れる也。

○故にフリードリヒ・エンゲルも亦曰く「一切社會的變化、政治的革命を以て、其究竟の原因が、人間の頭腦に出ると爲すと勿れ、一定不變の正義眞理の講究に出ると爲すと勿れ、夫

## 社 會 主 義 神 隨

れ唯だ生産交換の方法の變化如何と見よ。然り之を哲學に求むる勿れ、唯だ各時代の經濟に見よ。若し夫れ現在の社會組織が非理たり、不正たり、昨日の正義が今日の非理となり、去年の正義が今年の罪惡となれるを見れば、即ち其生産交換の方法漸く暗遷默移し去つて、當初に適應せる社會組織が、既に其用に堪へざるに至れるとを知らん也」と。

○然り世界の歴史は産業方法の歴史のみ、社會の進化と革命は一に産業方法の變易のみ。誰か道ふ、今の産業制度は常住也と、誰か道ふ、今の地主資本家は永劫也と。

○然らば則ち現時社會の産業方法、マルクス以來所謂資本家制度として知られたる特種の産業方法は、果して何の處より來り、何の處に去らんとする乎。

## 社 會 主 義 神 髓

○蓋し中世紀に在てや、今の所謂資本家なく、今の所謂大地主なし。而して其社會を支持する所以の産業は、常に一般労働者の手に在りき。地方に在ては即ち自由民若くば農奴の耕作なりき。城市に在ては即ち獨立工人の手工なりき。而して彼等が労働の機關たる土地や、農具や、仕事場や、器具や、皆な各個人單獨の使用に適する者なりしが故に、彼等は各個に之を所有して、自由に各自の生産を爲したりき。

○而して此等散漫にして小規模なる産業機關を集中し、擴大して、以て現代産業の有力なる楨杵と變ずるは、是れ産業歴史に於ける自然の大潮流なりき。所謂商工資本家の天職なりき。彼れ夫れ米國の發見や、喜望峰の廻航や、東印度の貿易や、支那の市場や、世運の進歩は、産業の方法を鞭撻して、地

## 社 會 主 義 神 髓

方的より國民的に、國民的より世界的に促進せずんば止まざりし也。而して第十五世紀以來如何に是等の産業方法が漸次に諸種の歴史的段階を通過して、以て所謂「近世工業」に達するに至れるかは、マルクスが其大著『資本』に細説せし所也。

○然れども一般の生産機關が猶ほ個人的方法の域中に彷徨して、未だ多數労働者の協力を要すべき社會的方法を採用すると能はざるの間は、彼等資本家が直ちに是等生産機關を變して、以て偉大なる産業的勢力を顯現するは到底不可能の事なりき。而も時節は到來せり、蒸氣器械の一たひ發明せらるゝや、歴史は急轉直下の勢を以て、其「産業的革命」を成功せり。

○ 絲車は即ち紡績器械となれり、手織機は織物器械となれり、個人の仕事場は數百人乃至數千人を包容するの工場となり、個人的労働は變して社會的労働となり、個人的生産物は變して社會的生産物となる。見よ昔は個人各自に能く之を生産せる者、今や一綫の絲、一尺の布と雖も、總て是れ多數の労働者が協力の結果に非ざるは無く、又一人の『是れ予の作る所、予一個の生産物也』と言ひ得る莫し。

○ 但だ吾人は知らざる可らず、産業的革命の功果や、彼が如く其れ顯著なりしと雖も、而も其初めに當つてや、彼等商工資本家は必しも其革命たる所以を承認する者に非ざりき、彼等の之を利導し助成する、單に其商品の増加發達を希ふに過ぎざりき、其商品の増加發達の爲めに、資本の集中、生産

機關の膨大を希ふに過ぎざりき。唯だ此目的を達するに急なる、即ち個人的生産打壞の事に任じ、更に個人的生産を保護する所以の封建制度顛覆の事に任じて、不知不識の間に其歴史的使命を了せるのみ。

○ 夫れ唯だ生産の増加を希ふのみ、之が交換の如何を問はざる也、夫れ唯だ資本の集中を希ふのみ、之が領有の如何を問はざる也。是を以て其生産は即ち協同的となれるも、其交換は依然として個人的なるを免れざりき、製造工場組織は既に新天地を現ぜるも、其領有は猶ほ舊世界の様式を脱する能はざりき。於是乎矛盾は生ぜざるを得ず。

○ 生産の猶ほ個人的なるの時に於ては、其生産物の所有に關する問題は、決して起來すると無りき。各個の生産や、皆な

自家の技倆を以てせり、自家の原料を以てせり、自家の器具を以てせり、而して彼れ及び彼の家族の勞働を以てせり、而して生産する所の結果が何人に屬す可き乎、言を俟たずして明かなるに非ずや。

○故に昔時生産機關を所有する者は、皆な其生産物を領有せり、而して是れ實に彼等自身が勞働の結果なるが爲めなりき。而して今の生産機關所有者も、亦其生産物を領有す。然れども見よ、其生産物や決して彼等自身の勞働の結果に非ずして、實に他人の生産する所に非ずや。然り今の勞働や協同的也、今の生産や社會的也、又一個の是れ予の生産物也と言ひ得るなし。而も是等の生産や、其生産者に依て社會的に共有せらるゝと無くして、舊に依て唯だ個人の爲めに領有

### 社 會 主 義 神 髓

せらる、唯だ所謂地主資本家てふ個人の爲めに領有せらる、是れ豈に一大矛盾に非ずや。

○然り大矛盾也。而して予は信ず、現時社會の一切の害惡は實に這個の矛盾に胚胎し來れるとを。

○其第一は即ち階級の争鬪也。『近世工業』の一たび隆興するや、瞬息の間世間萬邦を席捲して、到る處個人的小産業の壓倒し去らるゝ者、紛々落葉の如くなりしは、元より怪しむに足らず。而して從來個人的生産者や、全く其利を失はざる可らず、其業を失はざる可らず。彼等は即ち其個人的小器械を棄て、社會的生產に従はんが爲めに、大工場に向つて趨らざる可らず。然れども其生産物や即ち資本家てふ個人の領有に歸せるが故に、彼等の得る所は、僅に一日の生命を支ふ

### 社 會 主 義 神 髓



## 社 會 主 義 神 髓

るの賃銀のみ。加ふるに封建の制破壊せられて土地の兼併盛んなるに至るや、地方小農競ふて都會に出て、賃銀に衣食せんとを求むるは、是れ自然の勢にして、而して工業の發達熾なる丈け、夫れ丈け自由獨立の勞働者は漸く迹を絶ちて、所謂賃銀勞働者なる者、日に多きを致せり。於是乎社會は、一面に於て生産機關を專有して、盡く其生産を領有するの資本家てふ一階級を生ずると同時に、他面に於て、彼の勞働力の外何物をも有するとなき勞働者の一階級を生じて、兩者の間判然鴻溝を劃するに至る。社會的生產と資本家的領有との間に生ぜる一大矛盾は、如此くにして先づ其一端を、地主資本家と賃銀勞働者との衝突に現ぜる也。

○管に之のみに非ざる也、個人的領有の結果は即ち所謂自

## 社 會 主 義 神 髓

由競争ならざるを得ず、自由競争の結果は、即ち經濟界の無政府ならざるを得ず。昔時個人的生産の時に於てや、其生産は主として自家の消費に供し、餘あれば則ち地方の小市場に輸するのみ、故に其商品の需用の豫知す可らずして、一般競争の法則に支配せらるゝ、固より之れ無きに非ずと雖も、而も其範圍極めて狹隘にして、未だ其太甚なるに至らざりき。今や然らず、其作る所は決して生産者彼等自身の消費に充るが爲めに非らずして、盡く是れ個人の商品として交換の利を競ふに在り。夫れ唯だ個人の競争に一任す、生産力の増加し發達し、市場の擴大するに従つて、競争益々激烈に、世界の經濟社會は全く無政府の状態に陥り、優勝劣敗、弱肉強食、具さに其慘を極めり。如此にして社會的生產と資本家的

## 社 會 主 義 神 髓

領有の間に生ぜる一大矛盾は、更に組織的なる工場生産と無政府なる一般市場との衝突となつて顯現せる者に非ずや。

○然り矛盾の極は衝突也、衝突の極は即ち破裂に非ずや。今の資本家的産業の方法や、其根源に於て既に一大矛盾を以て其運行を始めたり、而して矛盾の發展する所、一は即ち階級の衝突となり、他は即ち市場の衝突となる。而して是等兩個の方面に於ける衝突や、互に巴字の如く相趁ひ、旋風の如く相追ふの間、其勢力漸次に激烈を致して、遂に現時の産業制度全體の大衝突大破裂に至らざれば已まざらんとするを見る也。何を以てか之を言ふ。

○經濟的自由競争及び階級戦争の久しきに彌るや、其結果

## 社 會 主 義 神 髓

は必ず多數劣敗者の其産を失ふ也、賃銀労働者の増加也、資本集中の強大也、生産器械の改良を加ふる也、彼の器械の改良が年々労働の需用を省減して已まざると同時に、労働の供給が日々其増加を來すや、即ち多數労働者の過剰は生ぜざることを得ず、エンゲルの所謂「工業的豫備兵」なる者は是れ也。

○工業的豫備兵の現出や、近世工業の下に在て極めて哀しむべきの特徴なりとす。彼等は經濟市場の好況なるの時に於ては、辛うじて其職に就くを得ると雖も、一朝貿易の萎靡するに遇へば、數萬乃至十數萬の多數労働者は、恰も塵芥を捨るが如く、工場外に放擲せられて、道途に凍餒せざるを得ず、是れ實に現時歐米諸國の常態也、而して我國の如き其慘

状未だ如此きに至らずと云ふと雖も、而も社會の經濟が資本家的自由競争に一任する以上は、到底免る可らざるの趨勢にして、餘す所は唯だ時日の問題のみ。

○而して多數勞働者彼等自身の競争は之に伴ふて激す。次で一般賃銀低落の勢ひは成る。一般賃銀の低落は、即ち勞働者をして其生命を支へんが爲めに、長時間過度の勞働に従はざるを得ざらしむ。而して資本家の掠奪は實に此際に於て逞しくせらる。

○マルクスは蓋し謂らく、『交換は決して價格を生ずる者に非ず、價格は決して市場に於て創造せらるゝ者に非ず。而も資本家が其資本を運轉するの間に於て、自ら其額を増加するを得るは何ぞや。他なし、彼等は實に價格を創造し得る

## 社會主義神髓

## 社會主義神髓

所の驚く可き力を有する商品を購入するを得れば也。此商品とは何ぞや、人間の勞働力は是れ也。夫れ此力の所有者は其生活の必要の爲めに、之を低廉に賣却せざるを得ず、而して此力が一日に創造するの價格や、必ず其所有者が一日の生活を支持するの費用として受くる賃銀の價格よりも、遙に多し。例せば一日六志の富を創造し得るの勞働力は、一日三志を以て購買せらる、其差額を名けて剩餘價格サバク、ケツ、コトと云ふ。彼等資本家が其資本を増加するを得るは、唯だ此剩餘價格を勞働者より掠奪して、其手中に堆積するが爲のみ」と。

○然り『剩餘價格』の掠奪は、資本を増加せしめて已まず、資本の増加は更に器械の改良を促して已まず、改良の器械は、再び轉じて剩餘價格掠奪の武器となる。而して爾く轉々する

の間に於て、社會の生産力は層々膨脹して底止する所を知らず。而も内國市場の膏血は既に彼等資本家の絞取し盡す所となつて、社會多數の購買力は到底之に應ずるに足らず。於是乎彼等資本家は百方生産力疏通の途を求むるや急也。曰く、新市場を拓開せよ、曰く、領土を擴張せよ、外國の貨物を掃蕩せよ、大帝國を建設せよと。然れども世界の市場も亦限りなきとを得ず、現時生産的洪水が無限の氾濫は、竟に其壅蔽し得る所に非ざるの勢を示せり。

○而して來る者は即ち資本の過多也、資本家は之を投ずるの事業なきに苦しむ、生産の過多也、商品は之を輸するの市場なきに苦しむ、勞働供給の過多也、工業的豫備兵は之を雇使するの工場なきに苦しむ。今の文明諸國、苟くも近世工業

## 社會主義神髓

を採用するの地、皆な此デレンマに陥り、若くば陥りつゝあらざる者なきに非ずや。於是乎『生産過多』の叫聲は到處に反響す。

○思へ資本家は銳意して、資本の集中、生産の増加を努めたり、而して今や彼等は却つて生産の過多なるに苦しむ、器械の改良は人力の需用を省減せしめたり、而も多數の勞働者は却つて衣食の匱乏に苦しめり。社會多數の人類は、多額の衣服を作れるが爲に、却て赤裸々ならざるを得ず。是れ何等の奇現象ぞや。現時産業制度の矛盾衝突は、於是て更に大踏瀾歩し來れる者に非ずや。

○嗚呼『生産過多』の叫聲、是れ實に破裂の將に至らんとするを警むるの信號に非ずや。果然破裂は其端を恐慌の續出に

## 社會主義神髓

發せり。

○恐慌の禍も亦慘なる哉、貿易は萎靡を極むる也、物價は俄然として暴落する也、貨物は停滯して動かざる也、信用は全く地を掃ふ也、工場は頻々として閉鎖せらるゝ也、多數の商工の破産は破産に次ぎ、多數勞働者の失業は失業に次ぎ、穀肉庫中に充ちて、而して餓孚却つて途に横ふ。如此き者數旬數月、甚しきは瘡痍數年に彌つて癒えざるに至る、フリーエーの所謂『充溢の危機』なる者即ち是れ也。而して此等恐慌や其起るや決して偶然に非ず、其去るや亦偶然に非ず。彼一千八百二十五年の大恐慌以來、殆ど毎十年、期を定めて以て其禍を被らざるなきを見れば、如何に現時經濟組織の根底が深く馴致する所ありしかを知るに足らん。

### 社 會 主 義 神 髓

### 社 會 主 義 神 髓

○而して恐慌の至る毎に、少數なる大資本家の能く此危機に堪ふるを得る者、常に多數の小資本家の破産零落に乗じて、併呑の慾を逞しくするは、自然の勢ひ也。加ふるに大資本家彼等自身も亦相互の競争の危険と、恐慌の襲來を憂慮して措かざるの極、漸次に領有交換に於ける個人的方法の範圍を讓歩して、社會的方法を採用し、以て矛盾衝突を緩和せんと試みたりき。株式會社の組織は之が爲めなりき、同業者大同盟の起るは之が爲めなりき。而して是等手段も亦彼等の運命を永くするに足らざるを見るや、彼等は即ち現時のツラストなる牙城を築きて、以て最後の惡戰を開始せり。如此にして自由競争の根底に立てるの資本家制度は、其進化發達の極、却つて自ら自由競争を一掃し去りて、世界各國の

産業は殆どツラストの独占統一に歸せずんば已まざらんとす。

○然れどもツラストが猶ほ資本家階級の爲めに領有せらるゝの間は、現時の矛盾衝突をして、決して最後の解決を得せしめざるのみならず、却つて一段を激進せしむるの具たらずんばあらず。何となれば今や彼等の事業は、唯だ生産の額を制限するに在れば也。價格を騰昂せしむるに在れば也。而して其独占の暴威を利して、法外の剩餘價格を掠奪するに在れば也。社會全體の窮困匱乏を増大するに在れば也。於是乎社會人類の多數は唯だツラストを所有する少數階級の爲めに、其貪慾の犠牲に供せらるゝに至れり。資本家對労働者の階級戦争は、其進化發達の極、遂に變じてツラスト對

## 社會主義神髓

社會全體の衝突となり了れる也。

○而して社會全體は何時迄か這箇の状態に堪ふるを得る乎。何時迄か資本家てふ階級の存在を是認せんとする乎。彼の尨大なるツラストは、獨り無責任なる不規律なる個人的資本家の手に支配されざる可らざる乎。社會は之を公有して統一あり組織あり調和あり責任あるの産業と爲すとを得可らざる乎。從來唯だ資本の集中と生産の増加とを以て天職使命となせるの資本家てふ一階級は、此に至つて既に其天職使命を了せるに非ずや。其存在の理由を失へるに非ずや。今や彼等は單に財富分配の防礙物として存するのみに非ずや。獨り労働者のみならず、實に社會全體と生産機關との間に於ける障壁として存するのみに非ずや。

## 社會主義神髓

○然り今や工場に於ける協同的、社會的生産組織の發達は遂に一般社會の無政府的自由競争と兩立せざるの點に迄達せる也、小數資本家階級の存立を認許せざるの點に迄達せる也、換言すれば矛盾衝突は其極度に達せる也、一面に於ては資本家的個人領有の制度が、最早是等の生産力を支配するの能力なきを示すと同時に、他面に於て是等生産力夫れ自身も亦其無限膨大の力の威壓を以て、現時制度の矛盾を排除し盡さんとせる也、私有資本の域を逸脱し去らんとせる也、其社會的性質を實際に承認されんとを要求命令しつゝある也、是れ豈に一大轉變の運に向へる者に非ずや、一大破裂の時に瀕せる者に非ずや、是れ實に世界産業歴史の進化發達する所以の大勢にして、資本家階級億萬の黄金も

又之を如何ともする莫き也。  
○新時代は於是て來る。

聖賢不自之衷。托之日月。

天地不平之氣。托之風雷。

第四章 社會主義の主張

○現時の生産交換の方法、即ち所謂資本家制度は今や其進化發育の極點に達せり。夫れ勢ひ極まれば變ず、花瓣は一日散亂せざるとを得ず、卵殻は一日破壊せざるとを得ず、唯だ散亂す故に新果あり、唯だ破壊す、故に雛兒あり。社會産業の組織豈に獨り此理法を免るゝを得んや。

○而して之が進化の理法を説明し、其必然の歸趣を指示して、以て人類社會の向上を促す者、實に我科學的社會主義の主張ならずんばあらず。然らば則ち社會主義は吾人に向つて、果して何の新果と雛兒を將ち來さんとする乎。何の新時代を指示して、以て私有資本の舊組織に代へんとする乎。

社會主義隨神

社會主義隨神

○教授イリイは社會主義の主張を剖拆して、四個の要件を包有すと爲す、言頗る當を得たり。所謂四箇の要件とは何ぞや。

○其一は、物質的生產機關、即ち土地資本の公有是れ也。

○方今社會百害の源が、實に社會的生產機關を揚げて個人所有と爲せるに在るは、前章既に之を言へり。夫れ唯だ個人所有に委す、是故に之が所有者は徒手遊食して以て社會生産の大部を掠奪し、多數人類は爲めに益々匱乏墮落に至れる者、實に吾人の永く忍ぶ能はざる所也。而して之が救治や、決して區々小策の能する所に非ずして、必ずや根底の矛盾を排除して、以て産業組織全體の調和を得せしめざる可らず、生産機關の公有豈に已むを得んや。



○夫れ土地や、人類未だ生ぜざるの時よりして之れ有り、獨り地主の製作する所に非ざる也。資本や、社會協同の勞働の結果也。獨り資本家の生産する所に非ざる也。其の在るや唯だ社會人類全體の爲めに在り、個人若くば少數の階級の爲めに存するに非ざる也。故に地主資本家獨り之を專有するの權元より有るの理なしと雖も、而も之を使用して、社會其惠に浴するの間は猶ほ恕す可し。若し夫れ彼等が一に之を以て社會全體の富財を掠奪し、其幸福を犠牲とし、其進歩向上を阻礙するの具に供するに及びては、社會が直ちに之を彼等の手より掠奪して、マルクスの所謂「是等掠奪者より掠奪す」の至當なるは、言を俟たざる所也。

○故に近世社會主義は、社會人民全體をして、土地資本を公

有せしむるを主張す、社會人民全體をして之より生ずる利益に與からしむるを主張す、而して更に從來經濟的意義に於ける地代及び利息の廢滅を主張す。

○之れを以て甚だ奇異の感を爲すと勿れ、見よ現時に於ても諸種の事業の既に公共の所有たる者尠しとせざるに非ずや。郵便電信は、米國を除くの外は、文明諸國皆な國有たり、鐵道も亦日耳曼、澳地利、丁抹の諸國之を國有と爲し、森林、鑛山、耕地の一部、煙草、酒精の販賣の事業等、國有と爲す者多きに非ずや。但だ今の所謂國有なる者や、往々にして中央政府の所有を意味して、未だ完全なる社會的公有の域に達する能はざる者ありと雖も、而も個人若くば少數階級の私利の壟斷を脱せるに至つては即ち一なるに非ずや。

社會主義の神髓

○然り社會主義の主張や、決して中央集權を希ふ者に非ず、其機關と事業との性質如何に従つて、或は一國の有と爲す可く、或は郡縣町村の有と爲す可し。現時の公有産業にして水道、電燈、瓦斯、街鐵等が都市の所有に屬せるが如き、即ち是れ也。要は個人の手より移して、一般公共の利益に供するに在り。

○現時の經濟學者は皆、な曰ふ、彼初めより獨占的性質を帶ぶるの事業は、之を國有若くは市有と爲すべし、然らざる者は即ち個人の競争に委して以て其進歩を圖るに如かずと然れども、産業制度の進歩は、從來獨占的性質を帶びざる各種の事業をして、亦盡く獨占の事業と化せるに非ずや。彼米國に見よ、製鐵も獨占となれるに非ずや、石油も獨占となれ

社會主義の神髓

るに非ずや、石炭も紡績も、皆大會社、大ツラストの獨占として、他の競争を許さざるに至れるに非ずや。個人競争の極は即ち資本の集中合同也、資本の集中合同の極は即ち各種の事業をして、盡く獨占の事業たらしめずんば已まず。經濟的自由競争より生ずる進歩は過去の夢也、今や問題は、此等獨占の事業をして依然小數階級に私せしむべきか、將た社會公共の所有に移して其統一を期すべきか、二者其一を擇むに在り。是れ社會進歩の大勢にして必然の結果ならずんばあらず。而して社會主義の第一義は唯だ之を是れ指示せんと欲するのみ。

○要件の第二は、生産の公共的經營是れ也。

○生産機關たる土地資本、既に社會の公有に歸すと雖も、其

事業の經營に至りては猶ほ個人的手中に在る者多し、例せば鐵道の如き、街鐵の如き、社會之を公有して而して其經營は即ち私設の會社に托し、酒精の如き、鹽の如き、煙草の如き、政府專占の事業となれる者にして、其生産若くば交換の一部は、依然個人の事業として存し、或は公有の耕地にして、私人に委して耕耘せしむる等の類是れ也、而して是等私人若くば私設會社の經營の目的や、常に彼等自身が市場の利益を趁ふに在り、彼等の利益一たび休せん乎、其産業は即ち廢棄せらる、是れ資本家制度の下に在て免る可らざるの狀態也、故に眞に社會の産業をして個人の利益の爲めにせずして、社會全體の消費に供し、市場の交換の爲めにせずして、社會全體の需用を満足せしめんと欲せば、其經營や、決して私

人の手に委す可らずして、必ずや公共の管理に待たざる可らず、社會は即ち獨り生産機關を公有するに止まらずして、公選せる代表者をして之を經營せしめざる可らず、而して是等の經營や、必ず社會全體に對して其責に任せしめざる可らず。

○或は曰はん、事業の經營や、唯私有として始めて能く其功果を揚ぐるとを得んのみ、既に自家の私有に非ずとせば、誰か其職に忠なる者あらんやと、然れども見よ、今の三井家の主人は其事業の經營に於て、果して幾何の勤勞に服せる乎、岩崎氏の主人は其事業の管理に於て、果して幾何の技倆を現せる乎、生産機關の膨大し、事業の發達し、生産の増加すると高度なるに及んでや、其運用は到底個人の技量の能く堪

## 社會主義の神髓

ふる所に非ずして、遂に多數協同の手腕を要するに至るべし、況んや凡庸遊惰の資本家をや。現時諸種の大規模の産業に於て、其實際の經營管理は一として其所有者たる資本家に依て成さるゝ者なくして、却て所有者たらざる社員若くば雇人の技能に依て、能く其効果を奏しつゝあるに非ずや。社會主義は即ち是等世襲の所有者に代ふるに、社會公選の代表者を以てし、放逸の資本家に代ふるに責任あるの公吏を以てし、私人の使役せる雇人若くば社員に代ふるに、公共の任命せる職員を以てせんと欲するのみ、而して其産業の進歩は獨り所有者の利益たる者に非ずして、社會全體皆直ちに其恵に浴するを得べしとせば、予は未だ各人が今日に比して其職に忠ならざる所以を發見するを得ざる也。

## 社會主義の神髓

○社會が如此にして一切の生産機關を公有し、一切の産業を管理するに至らば、社會人民全體は即ち其株主にして亦實に其勞働者也。社會は其適する所の職業を彼等に與へ、彼等は其勞働を以て社會に奉ず。而して其生産や既に市場交換の爲めに在らずして、社會全體の消費に在り、生産益々多くして、社會の需用は益々満足せらるゝを得、又物價の低落を憂へざる也、又生産の過多を憂へざる也、而して勞働者の失業の問題亦全く解決せらるゝを得ん也。若し眞に生産の消費に過ぐるあらん乎、唯だ勞働時間の短縮にして足れり、豈又一人の其所を得ざる有らんや。

○否、な啻に失業の人なきのみならず、一面に於ては、萬人皆勞働に服せざる可らざるを意味す。公共的生産の下に在

## 社會主義神髓

### 第四章 社會主義の主張

六十

ては、利息なく地代なし、徒手逸居して以て他の勞働の結果を掠奪するの手段なければ也。フィフテ曰へる有り「勞働せざる者は、即ち衣食の權利なし」と。是れ眞理也、正義也、社會主義は眞理正義の實現せられんとを要求す。

○要件の第三は、社會的収入の分配是れ也。

○公共的生産の収入や、必ず社會公共の領有に歸すべくして、個人の擅まに占斷するを許さざるは論なし。而して社會の公選せる代表者若くば職員は、先づ其の収入の一部を以て、生産機關の保持、擴張、改良及び備荒の資に充るの外、地は總て社會全體に分配して其消費に供すべし。而して此等分配や之を生産する者特りに之に與かるのみならず、老幼其他勞働の能力無き者と雖も、固より之を要求するの權利有る

## 社會主義神髓

### 第四章 社會主義の主張

六十一

可し。何となれば其富や既に社會の領有たり、其人や實に社會を組織する所の一員たれば也。此點に於て社會主義の主張は完全なる相互保險也、社會主義制度の下に在ては、吾人萬人は其生れてより死に至るまで、獨り疾病、災禍、老衰に對するのみならず、教育、娛樂、其他一切の需用を満足すべき保險を有する也。但だ勞働の能力あつて而も其義務に服するを嫌ふが如きは嚴に制裁を加ふべきのみ、否な社會の組織改善し生活の苦痛減少するに従つて、是等不徳の徒亦自ら其迹を絶つに至るべきは、予の信じて疑はざる所也。

○於て吾人は重大なる問題に逢着す。何ぞや、曰く、其分配の公正フェアネスてうこと是れ也。然り公正の分配、是れ實に社會主義の唱道せらるゝ所以の最大の動機也、社會主義要件中の要

## 社會主義神髓

件也、産業組織が進化發達する所以の主要の目的也。然らば即ち如何の方法標準が果して其公正を得べしとする乎。

○分配の標準に關して、社會主義者の企圖古今一ならずと雖も、凡そ四種に別つ可し。一は其分配する所の物件、量と質と兩つながら必ず均一ならんとを要する者、バボーフ此説を持せり。次は技能成績の短長に比例して、報酬に等差あらしめんとする者、サン・シモンの主張せし所也。次は唯だ各人の必要に準じて給與する者、ルキプラン之を以て理想と爲せり。而して近時の社會主義者中、各人の分配額は其質に於てせずして其價格に於て平等ならしめんと唱道する者多し。

○夫れ各個の人、心身兩ながら皆な異ならざるはあらず、從

## 社會主義神髓

つて生活の必要を異にし嗜好を異にす、強て其平等ならんとを求むるは、却つて公正を欠くの甚しき者、分配の量と質との均一なる可らざるや論なし。

○技能の長短に應じて報酬に等差ある、稍や公正に近きに似たり。而も如此くなれば、勞働の能力なき者は即ち饑ざる可らず、是れ豈に社會的道德の本旨ならんや。且つや技能の長短は必しも消費の多少に伴はず、例せば甲の成績は能く乙に二倍すと雖も、而も甲の食餌の量は必しも乙に二倍せざるに非ずや。啻に是のみならず、社會主義制度の下に在てや、其生産は多く社會的生産也、協同的生産也、甚だ個人特種の技能に待つある者に非ず。而して偶ま個人特種の技能に待つ有るも、是等技能や、亦實に社會全體の感化、教育、薰陶、啓

發の賜に非ざるはなし。既に社會に負ふ所多き者、亦多く力を社會の爲めに効すは當然の責務のみ、何ぞ特に物質的財富の多きを貪る可きの理あらんや。

○社會の生産分配の目的が、眞に社會萬民生活の需用を満足せしめ、其進歩を促すに在りとせば、吾人は即ち其必要に應じて分配するを以て、最終の理想と爲さざる可らず。爰に一個の家庭ありとせよ、而して父母たる者若し其子女を遇するに、此子は才能あり、美衣美食を與ふ可し、彼子は庸劣なり、惡衣惡食にして可なりといふ者あらば、吾人の良心は果して之に忍ぶ可き乎。夫れ一家の兒女、長幼強弱皆を各々異りと雖も、而も其衣食分配の標準が、決して技能成績の如何にあらずして、必ず其必要に應ずべきは、人間道德の命ずる

## 社會主義神髓

## 社會主義神髓

所にあらずや。社會主義の主張は、社會を以て一大家庭と爲すに在らざる可らず。社會は其父母たらざる可らず、各人は皆な同胞たらざる可らず。而して父母の其兒女に向つて分配する所、先づ其尤も急なる者、例せば食餌、衣服、住居及び教育の資より始めて、漸次に其急ならざる者に及ぶ。其量と質とは固より大に異なるなきを得ずと雖も、而も各々十分に其生を遂ぐる所以に至りては、即ち一なるに非ずや。

○若し夫れ分配の價格を平等するの說や、自ら必要に應ずるの分配と其結果を同じくす可し。何となれば、此分配や決して物品の同一を意味する者に非ざるが故に、各人其價格の範圍に於て、自由に自家の必要と嗜好を満足せしむるの物件を求め得可ければ也。但だ其價格の制定極めて困難な

りと爲すのみ。

○要件の第四は、社會の收入の大半を以て個人の私有に歸するとは是れ也。

○世人多くは曰く、財産の私有は、個人の自由を保持し智徳を向上するが爲に極めて必要の事と爲す、而も社會主義は之を禁絶せんとするに非ずやと。財産私有の必要なるは洵に然り、然れども社會主義が之を禁絶せんとすといふに至りては、誣妄の甚しき也。否、之を禁絶するは却つて現時の産業組織に非ずや。見よ、今の産業組織の下に在ては、社會の財富は常に一部の地主資本家の手に集中し、社會全體をして決して其自由を保持し智徳を向上するに足るべき財産の所有を許さざるに至れるに非ずや、而して彼等多數は漸

社會主義の神髓

次に無一物となり、其日暮しとなり、所謂『賃銀奴隸』の境涯に墮落しつゝあるに非ずや。

○社會主義の制度は即ち之に反す。社會的歳入の大半を以て各人に分配して以て之を私有せしむ。故に公共生産の發達し社會的収入の増加するに従つて、個人の私有亦益々富厚にして、各其所好に従つて消費し若くば貯蓄するを得。又其匱乏の爲めに他人に依頼するを要せず、他人の爲めに制せらるゝの憂ひなし。如此にして社會主義は實に財産私有の制を擴張して、以て萬人の自由を保障し、其向上を促進せんと欲する也。

○但だ知らざる可らず、社會主義は私有の財産を増加すと雖も、此財産や實に各人の消費に充つるの財産にして、決して

社會主義の神髓



て土地資本、即ち生産機關を意味する者に非ざるとを。生産の機關が必ず公有たるべくして、其生産の結果が必ず一たび社會の收入たるべきは、固より前に言へるが如し。

○論者又曰く、夫れ私有の財産富厚なるに至れば、節儉なる者は之を貯蓄し、資本として使用する者あるに至らん、果して如此なれば直ちに資本家の階級を生じて、貧富の懸隔する舊の如くならんと。然れども産業の方法規模益々尨大なるに従つて、唯だ共同的經營に待つ可くして、決して個人の支持に堪へざるに至るべきは、現時の狀勢既に之を證せり。若し然らざるも、一切の生産機關既に公有となり、重要な産業が總て社會公共の手に管理さるゝの時に於ては、一個人は又其私有の財産を資本として投ずるの機會有ると無け

ん。假に些細の私業を企圖して、之に放資する者有りとすも、曷ぞ能く社會公共の大産業と競争兩立するを得んや。眞に是れ鐵牛角上の蚊のみ、以て全體の組織を損傷するに足らざる也。

○更に知らざる可らず、吾人は社會的収入の『大半』を私有す可し云ふ、其全部と云ふ者に非ざるとを。社會生産の目的や、一に吾人需用の満足に在りと雖も、而も吾人需用の満足は、必しも之を私有するを要せざる者多し。現時に在ても、學校、公園、道路、音樂會、圖書館、博物館の如き、共有の財産として、各人の必要と嗜好を満足せしめんが爲めに、自由に之を使用するとを許せり。將來經濟組織益々統一し、社會的道德益々發達するとを得ば、社會的収入を公共的に使用し、以て公

共の利益、進歩、快樂を圖るの風亦愈々盛なる可きが故に、諸種の收入財産の共有として存ずる者、今日に比して更に著大の増加を見ん也。

○イリーの所謂社會主義の四個の要件は上の如し。予は之に依て略ぼ其主張の在る所を窺ふを得たるを信ず。然り社會主義は實に此等要件の實現を以て、社會産業の歴史的進化に於ける必然の歸趣と爲す者也。

○故にミルは定義して曰く、『社會主義の特質とする所は、生産の機關と方法を以て社會人員全體の共有と爲すに在り従つて其生産物の分配も、亦公共の事業として、其社會の規定にする所に準して行はれざる可らず。』と。

○カーカツプは『エンサイクロペヂヤ・ブリタニカ』に記して

社會主義神髓

曰く、『現時私人の資本家が賃銀労働者を役して經營せる所の工業は、將來に於ては聯合若くは共同の事業として、即ち萬人共有の生産機關に依て行はれざる可らず。社會主義に於ける骨髓のプリンシプルとして承認さる可きは、其理論に見るも其歴史に徴するも一に是に外ならず』と。

○マルクスの女婿にして佛國マルクス派の首領たるパウル・ラファルギユは曰く、『社會主義は如何なる改良家の企畫にもあらず。唯だ現在の組織が既に重大なる經濟的進化の運に迫れるとを信じ、而して此進化の結果や、即ち資本私有の制は變じて労働者團體の共同的所有之に代るべきことを信ずる人々の教義也。故に社會主義の特質は、其歴史的發見の點に在り』と。

社會主義神髓

○エンゲルは更に曰く「社會が生産機關を掌握するや、商品の生産は即ち迹を絶つ可し、而して生産者は又生産物の爲めに制御せらるゝとなけん、社會的生產の無政府は一掃して、之に代る者は即ち規律統一ある組織ならん、個人的生存争闘は消滅せん。如此にして人は初めて禽獸の域を脱して眞個に其人たる所以の意義を全くするを得可し」と。

○然り、果して如此くならば、資本家は即ち廢滅せらる可し、労働者は賃銀の桎梏を脱す可し、各人は社會の爲めに應分の労働を供給して、社會は各人の爲めに必要の衣食を生産す。分配あつて商業なし、統計あつて投機なし、協同あつて争闘なし、豈又生産過多あらんや、豈又恐慌の襲來あらんや、人は決して富の爲に支配せらるゝとなくして、能く富を支配

するを得可き也。於是て現時産業組織の矛盾より生ずる百害は爲めに掃清せられて、能く自然の調和を全くするを得べき也。

杖底唯雲。壺中唯月。不勞鬪市之機。

石筍藏書。池塘洗墨。豈供山澤之稅。

## 第五章 社會主義の效果

○説て此に至らば、一團の疑惑は雲の如く、油然として直ちに衆人の心頭を衝て起る者あらん、何ぞや。

○曰く、古來人間の氣力奮揚し、智能練磨し、人格向上するを得る所以は、實に生存の競争あるが爲めに非ずや。若し萬人衣食の慮る可きなく、富貴の進取すべきなく、賢愚強弱皆な平等の生活に安んぜざる可らずと爲さば、何物か又吾人の競争を鼓舞せんや。競争なきの社會には即ち勤勉なけん、勤勉なきの社會には、即ち活動進歩なけん、活動進歩なきの社會は、即ち停滞、墮落、腐敗あるのみ、社會主義實行の效果は、唯だ如此きに止まらざる乎と。

## 社會主義神髓

## 社會主義神髓

○獨り庸衆の、這個の杞憂を抱けるのみならず、碩學スペンカーの如きすら亦曰く、『社會主義の制度は總て奴隸制度也』と。ベンジャミン・キッドも亦其大著『ソシアル・エヴォルーション』中に論じて謂らく、『個人の生存競争は、啻に社會あつて以來のみならず、實に生物あつて以來、常に進歩の源たる者也、而も社會主義の目的は全く之を禁絶するに在り』と。而して今の地主資本家に阿媚して自ら利する者あらんとするの徒、亦此種の言説を誇張し、以て社會主義の大勢に抗する唯一の武器と爲すものゝ如し。

○夫れ社會主義の爲す所にして、果して個人の自由を奪ひ社會の進歩を休せしむる彼等の言の如くならん乎、其唾棄すべきや論なし。然れども是れ誤謬也、誤謬にあらずんば即

ち譏誣也。

○思へ所謂生存競争が社會進化の大動機たるは、豈に彼等の言を待て後ち知らんや。而も古來社會の組織が漸次其状態を異にするに至るや、之を刺撃し活動せしむる所以の競争其物も亦従つて其性質方法を異にせざるを得ず。腕力の競争が智術の競争となれるを見よ、個人の競争が團體の競争となれるを見よ、武器の競争が辯説の競争となれるを見よ、掠奪の競争が貿易の競争となれるを見よ、侵略の競争が外交の競争となれるを見よ、生存競争の性質方法が、常に社會の進化に伴ふて進化せるの迹を見る可らずや。

○而して見よ、現時の經濟的自由競争が殖産的革命の前後に於て、世界商工の發達に與つて大に力ありしとは、予も亦

之を疑はず、然れども此等競争を必要とせし時代は既に過ぎ去れり。今や自由競争は果して何事を意味すとする乎、唯だ少數階級の暴横に非ずや、多數人類の痛苦に非ずや、貧富の懸隔に非ずや、不斷の恐慌に非ずや、財界の無政府に非ずや。是れ實に社會の進化に益なきのみならず、却つて其墮落を長ずる者に非ずや。如此にして吾人は猶ほ其保存を希ふの理由ある乎。

○太初蠻野の時に於てや、暴力の鬭争は社會進化の爲めに其唯一の動機たりき、而も今日に於ては直ちに一個の罪惡に非ずや。若し競争は進歩に必要なが故に、暴力も之を禁ずるを得ずと言は、誰か其無法を笑はざらんや。今の自由競争を以て必要となすの愚は實に之に類せずや。

## 社會主義神髓

○且つや眞個の競争を試む、必ずや先づ競争者をして平等の地位に立しめざる可らず、其出發點を同じくせしめざる可らず。而も今の競争や如何、一は生れながらにして富貴也、衣食足り、教育足り、加ふるに父祖の讓與せる地位と信用と資産とを以てす、他は貧賤の子也、凍餒窮苦の中に長じ、教育なく、資産なく、地位なく、信用なし、有る所は唯だ赤條々の五尺軀のみ。而して此兩者を直ちに競争場裡に投じて長短を較せしむ。而して其勝敗の決を見て喝采して曰く、是れ優勝劣敗也と、是れ豈に殘酷なる虐待に非ずや、何ぞ競争たるに在らんや。

○然り今の自由競争や、決して眞個公平の競争に非ざる也、今の禍福や決して勤惰の應報に非ざる也、今の成敗や決して

て智愚の結果に非ざる也、運命のみ、偶然のみ、富籤を引くと一般のみ。

○否な所謂自由競争の不公なるのみならず、此等不公の競争すらも、今や殆ど之を試むるの餘地なきに至らんとす。見よ、世界産業の大部は既に偶然を僥倖せる資本家の獨占となれるに非ずや、世界土地の大部は、既に運命の恩寵ある大地主の兼併に歸せるに非ずや。而して資本を有せざる者及び土地を有せざる者は、唯だ彼等の奴隸たるの外なきに至れるに非ずや。然り自由競争の名は美也、而も事實に於て經濟的競争は竟に其迹を絶たずんば已まず。豈に特に社會主義の之を廢絶するを待たんや。

○於是乎生存競争の性質方法は、更に一段の進化を経ざる

## 社會主義神髓

ことを得ず。社會主義は實に這個進化の理法を信じて、社會全體をして此理法に従はしめんと欲す。然り現時卑陋の競争を變じて高尚の競争たらしめんと欲す、不公の競争を變じて正義の競争たらしめんと欲す。換言すれば即ち衣食の競争を去て、智徳の競争を現せんと欲する也。

○試みに思へ、人生の進歩向上にして、單に激烈なる衣食の競争の結果なりとせん乎。古來高材逸足の士は必ず社會最下層の窮民中に出づべきの理也。而も事實は之に反す、人物が多く富貴の家に生ぜざると同時に、極貧者の中に出づると亦甚だ稀なるに非ずや。他なし富貴の階級や、常に佞媚阿諛の爲めに圍繞せられて、志驕り氣餒え、徒らに快樂の奴となり、窮乏の民や終生衣食の爲めに違々として、唯だ飢凍に

## 社會主義神髓

免るゝに急なれば也。

○然り高尚なる品性と偉大の事業とは、決して社會貧富の兩極端に在らずして、常に中間の一階級より生ずる者也。彼れ夫れ資財ありと雖も、未だ彼等を腐敗せしむるに足らず、勤勞を要すと雖も、未だ彼等を困倦せしむるに至らず、猶ほ其智能を磨くの餘裕有り、心氣を奮ふの機會多ければ也。見よ封建の時に於て武士の一階級が其品性の尤も高尚に、氣力の尤も旺盛に、道義の能く維持せられたる所以の者は、實に彼等が衣食の爲めに其心を勞するなくして、一に名譽、道徳、眞理、技能の爲めに勤勉競争するの餘裕機會を有せしが爲めに非ずや。若し彼等にして初めより衣食の爲めに競争せざる可らざらん乎。直ちに當時の『素町人根性』に墮落し去

## 社會主義神髓

## 社會主義神髓

らんのみ、豈に所謂『日本武士道』の光榮を擔ふとを得んや。

○基督は富人を嚴責するに、其天國に入り難きを以てし、貧しき者は幸福なりと曰へり。然れども知らざる可らず、當時猶太の貧民は、漁農を務め、工藝を勵み、以て獨立の生を營めるの中等民族にして、決して今日多數の賃銀的奴隸と同視すべきに非ざるとを、而して社會を擧げて是等中等民族と爲さんとするは、是れ社會主義の目的とする所に非ずや。

○爰に人あり、雇主の叱咤を恐るゝが爲めに非ず、財貨の報酬を望むに非ず、唯だ工作を愛するが爲めに建築に従事すとせよ、唯だ神來に乗じて其大筆を揮洒すとせよ。彼等の藝術は如何に其眞を得、善を得、美なるを得べきぞや。其他幽奥なる哲理の探討や、精緻なる科學の研究や、如此にして始め

## 社會主義神髓

て大に其光彩を放つべきに非ずや。

○更に一面より見る、現時社會の墮落と罪惡の大半は實に衣食の匱乏に因す、金錢の競争に因す。家庭の平和も之が爲めに害せられ、婦人の節操も之が爲めに汚され、士人の名譽も之が爲めに損せられ、而して一國一社會の風教、道德之が爲めに壞敗せらる。見よ現時我國監獄の囚徒七萬人、而して其罪狀の七割は實に財貨に關する者也といふに非ずや。古人言ひ得て佳し、『金が敵の世の中』なりと、若し世に金錢の競争なかりせば、社會人心は如何に純潔なる可かりしぞ、少くも今の罪惡は其大半を掃蕩す可きに非ずや。而して能く吾人の爲めに、金錢てふ怨敵を滅絶し、衣食競争の蠻域を脱せしむる者は社會主義に非ずや。ウイリアム・モリスは曰く



## 社會主義神髓

『人が財貨の爲めに心を勞するなきに至るも、技藝、萬有、戀愛等は、人生に與ふるに趣味と活動とを以てす可し』と。是等の趣味と活動は、吾人の爲めに更に正義高尚なる自由競争を開始して、以て社會の進化を促進するを得ん也。

○言ふと勿れ、衣食の慮る可きなくんば、人は勤勉するとなけん。人の勤勉を促す者、豈に唯だ財貨のみならんや、人間の性情は未だ如此く汚下ならざる也。見よ彼の深山大海の探險や、學術上の發明や、文學美術の大作や、其他各々好む所に従ひ適する所に向つて其技能を試むるに當つてや、心中獨り自ら愉悅に堪へざるもの無くんばあらず。況んや之に加ふるに多大の名譽光榮の酬ゆるありとせば、唯か欣然として其勤勞に服せざる者あらんや。少年の學生が孜々とし

## 社會主義神髓

て學ぶ者は、決して衣食の爲めにするに非ざる也。兵士の奮躍して死に趨くは、決して衣食の爲めにするに非ざる也。○現時勞働者の大抵勤勞を厭ふて、動もすれば安逸を貪るの状あるは、予も亦之を認む。然れども是れ豈に彼等の罪ならんや。夫れ演劇を觀、角觥を樂む者と雖も、其長きに及べば即ち倦怠を感ず。況んや惡衣惡食にして、一日十數時間の勤勞に服す、以て少壯より老衰に至る、何の希望なく、何の變化なく、何の娛樂なし。而して其事業や必しも其好む所に非ざる也。唯だ衣食の爲めに驅らるゝのみ。而して彼等が勤勞の功果や、其大部は即ち他人の爲めに掠奪せられて彼等は僅に其生命を支ふるに過ぎざるに非ずや。之を如何ぞ疲勞厭倦せざるを得んや。然り今の勞働者が衣食の爲に驅らる

ゝや、牛馬の如し、彼等の心身は既に其鞭笞に堪へざるに至れり。彼等が懶惰を以て其樂園と爲すに至れる者、一に現時社會組織の弊害之を致せるのみ。

○夫れ人は其勤勞の長きに堪へざるが如く、亦逸豫の長きに堪へず。試に今日の勞働者に向つて、汝の衣食は給せらるべし、汝是より勤勞を要せずと言はゞ、彼等は初め喜んで其惰眠を貪らん。而も如此き者數日ならしめよ、十數日ならしめよ、數月ならしめよ。彼等は漸く其徒然無爲に飽きて、必ずや多少の事業を求むるに至るや明らか也。

○故に社會主義制度の下に處して、衣食あり、休息あり、娛樂あり、而して後ち其好む所、適する所に従つて、一日三四時乃至四五時、其強健の心身を勞して社會に奉ずるが如きは、却

## 社會主義神髓

つて是れ一種の満足たらずんばあらず。苟くも人心ある者誰か敢て避躲せんや。『勞働の神聖』てふ語は、於して初めて意義あるを得ん也。

○若し夫れ社會主義を以て、個人の自由を没却すといふに至つては、妄之より甚しきは莫し。予は先づ此言を爲すの人に向つて反問せん、現時果して所謂個人の自由なる者ありやと。

○宗教の自由は之れ有らん、政治の自由は之れ有らん、而も宗教の自由や、政治の自由や、凍餒の人に在ては、一個の空名に過ぎざるに非ずや。所詮經濟の自由は總ての自由の要件也、衣食の自由は總ての自由の樞軸也、而して今果して之れ有る乎。

## 社會主義神髓

○米國勞働者同盟第十三回大會に於けるヘンリー・ロイドの演説の一節は、答へ得て痛切也、曰く『米國獨立の宣言や、昨日は自治(セルフ・ガバインメント)を意味せりき、今日は即ち自業(セルフ・エンプロイメント)を意味す。眞個の自治は即ち自業ならざる可らず。……而も今や勞働者が其爲す可き所を爲し得ず。其要する所を與へられざるは滔々皆な然らざるなし。勞働者は勞働の八時間ならんと欲す、而も彼等は十時間、十四時間、十八時間の勞働に服せざる可らず。彼等は其子女を學校に送らんと欲す、而も却て之を工場に送らざる可らず。彼等は其妻の家庭を治めんと欲す、而も却て之を機器車輪の下に投ぜざるを得ず。彼等は病で靜養を欲するの時、猶ほ勞働せざるを得ず。勞働を欲するの時、却て

解雇の爲めに失業せざるを得ず。彼等は職業を乞ふて得ざる也。彼等は公平の分配を得ざる也。彼等は他人の私慾若くば野望の爲めに、彼等自身の、彼等の妻の、彼等の子女の、四肢軀、健康、生命すらも犠牲に供せざるを得ず』と。豈に獨り工場の勞働者のみならずや、今の世に處して生産機關を有せざる者は、其生活の不安にして苦痛なる、皆な然らざるなし、而も彼等は呼んで曰く自由競争也、自由契約也と。是れ強制の競争のみ、是れ壓抑の契約のみ、何の自由か之れ有らんとするに在り、這個の壓抑を免れしめんとするに在り。一八九一年エルフルト大會に於ける獨逸社會民主黨の宣言書の一節は曰く『這個社會的革命は、特に勞働者の解放のみな

## 社會主義神髓

らず、實に現時社會制度の下に苦惱せる人類全體の解放を意味す」と思へ社會主義一たび實行せられて、天下雇主の爲めに驅使せらるゝの被雇者なく、權威に壓抑せらるゝの學者なく、金錢に束縛さるゝの天才なく、財貨の爲めに結婚するの婦人なく、貧窮の爲めに就學せざるの兒童なきに至らば、個人的品性の向上せられ、其技能の修練せられ、其自由の伸張せらるゝ果して如何ぞや。

○ミルは曰く『共產主義に於ける檢束は、多數人類に取て、現時の状態に比して、明かに自由なる者あらん』と、彼の所謂共產主義は即ち今の社會主義を意味する者也。

○然り宗教革命は吾人の爲めに信仰の桎梏を撤したりき、佛國革命は吾人の爲めに政治の束縛を免れしめき。而して

## 社會主義神髓

更に吾人の爲めに衣食の桎梏、經濟の束縛を脱せしむる者は、果して何の革命ぞや。エンゲルは即ち社會主義を稱して曰く、『是れ人間が必要の王國キングダムより一躍、自由の王國に上進する者也』と。

○夫れ唯だ『自由の王國』也、是を以て社會主義は國家の保護干渉に頼る者に非ざる也、少數階級の慈善恩恵に待つ者に非ざる也、其國家や人類全體の國家也、其政治や人類全體の政治也、社會主義は一面に於て實に民主主義デモクラシーたる也、自治の制たる也。

○今の國家や唯だ資本を代表す、唯だ土地を代表す、唯だ武器を代表す、今の國家は唯だ之を所有せる地主、資本家、貴族、軍人の利益の爲めに存ずるのみ、人類全體の平和、進歩、幸福

の爲めに存ずるに非ざる也。若し國家の職分をして如此き  
に止まらしめば、社會主義は實に現時の所謂『國家』の權力  
を減殺するを以て、其第一着の事業と爲さざる可らず。然り  
封建の時に於ては人類、人類を支配したりき、今の經濟制度  
の下に於ては、財貨、人類を支配せり、社會主義の社會に在て  
は、實に人類をして財貨を支配せしめんと要す、人類全體を  
して萬物の主たらしめんと要す。豈に奴隸の制ならんや、豈  
に個人を没却する者ならんや。否、人生は如此にして初め  
て其眞價を發揚す可きに非ずや。

○社會主義は、現時國家の權力を承認せざるのみならず、更  
に極力軍備と戦争とを排斥す。夫れ軍備と戦争とは、今の所  
謂『國家』が資本家制度を支持する所以の堅城鐵壁とする

所にして、多數人類は之が爲めに多大の犠牲を誅求せらる  
今や世界の諸強國は軍備の爲めに、實に二百七十億弗の國  
債を起し、而して單に之が利息のみにして、常に三百萬人以  
上の勞働を要すといふに非ずや。加之幾十萬の壯丁は常に  
兵役に服し、殺人の技を習ふて無用の勞苦を嘗めざる可ら  
ず。獨逸の如き、壯丁の多數は皆な兵士として徵集せられ、田  
野に耕耘する者は、半白の老人若くば婦女のみなりといふ  
嗚呼、是れ何等の悲惨ぞや。況んや一朝戦争の破裂に會ふや  
幾億の財帑を糜し、幾千の人命を損して、國家社會の瘡、永  
く癒るを得ず。贏す所は唯だ少數軍人の功名と、投機師の  
利益のみ。人類の災厄罪過、豈に之に過ぐる者あらんや。

○若し世界萬邦、地主資本家の階級存するなく、貿易市場の

競争なく、財富の生産饒多にして、其分配公平なるを得、人々各其生を樂しむに至らば、誰が爲めにか軍備を擴張し、誰が爲めにか戦争を爲すの要あらんや。是等悲惨なる災厄罪過は爲めに一掃せられて、四海兄弟の理想は於是乎始めて實現せらるゝを得可き也。社會主義は一面に於て民主主義たると同時に、他面に於て偉大なる世界平和の主義を意味す。

○故に予は茲に再言す。社會主義を以て競争を廢止する者となすと勿れ、社會主義は衣食の競争を廢止す、而も是れ更に高尚なる智徳の競争を開始せしめんが爲めのみ。勤勉活動を阻礙すと云ふと勿れ、社會主義の除去せんとするは、勤勉活動にあらずして、人生の苦惱悲惨のみ。個人を没却すと云ふと勿れ、社會主義は却つて萬人の爲めに經濟の桎梏を

脱却して、十分に其個性を發展せしめんと欲するに非ずや。奴隸制度なりと云ふと勿れ、社會主義の國家は階級的國家に非ずして、平等の社會也。專制的國家に非ずして、博愛の社會也。人民全體の協同の組織を爲して、以て地方より國家に及び、以て國家より世界に及び、四海平和の惠福を享受せんとする者に非ずや。

○果して能く如此しとせば、誰か又社會主義的制度の下に在て、人間品性の向上、道德の作興、學藝の發達、社會の進歩が今日に比して更に幾層幾倍なるを疑ふ者ぞ。

## 第六章 社會黨の運動

○曰く一切生産機關の公有、曰く富財の公平なる分配、曰く階級制度の廢絶、曰く協同的社會の組織、之が實行や洵に一大社會的革命也。然らば則ち社會黨は革命黨なる乎、其運動は革命的運動なる乎、曰く然り。

○然れども怯懦の貴族よ、小心の富豪よ、輕躁の有司よ、乞ふ恐るゝ勿れ。今の社會黨は漫に爆彈を公等の車馬に投ぜんとする者に非ざる也、敢て鮮血を公等の邸第に踏まんとする者に非らざる也、但だ公等と俱に與に大革命の德澤に沐浴せんと欲するのみ、恩惠に光被せんと欲するのみ。

○思へ古今何の時か革命なからん、世界何の邦か革命なか

## 社會主義神髓

## 社會主義神髓

らん、社會の歴史は革命の記録也、人類の進歩は革命の功果也。試みに思へ、當年の英國、クロムエルの起つに會はず、當年の米國獨立を宣するを得ず、佛國の民、共和の制を建つる能はず、日耳曼諸州聯合の業成らず、伊太利統一せらるゝを見ず、日本維新の中興なかりしとせば、世界人類は今や果して何の狀を爲すべき乎、現時の文明は果して何の處にか見るべき乎、革命を恐怖する者よ、現時公等が謳歌せる文明と進歩とは、實に過去幾多の大革命が公等に賚賜せる所に非ずや。

○社會の狀態が常に代謝して已まざるは、猶ほ生物の組織の進化して已まざるが如し。而して其進化や代謝や若し一たび休せるの時は、其生物や社會や即ち絶滅あるのみ。永久

の生命は必ず暗々裡に進化す、決して常住を許さざる也。社會の狀態は必ず冥々の間に代謝す、決して不變を許さざる也。而して這の暗冥なる進化代謝の過程プロセスに於て、毎に明白に其大段落を劃し、新紀元を宣言する者、則ち革命に非ずや。之を譬ふるに歴史は一連の珠數に似たり、平時の進化代謝は其小珠也、革命は其數取りの大珠也、進化代謝の連續なると同時に亦革命の連續たる也。

○ラツサルは曰く、『革命は新時代の産婆也』と。此語未だし也。予は將に曰はんとす、革命は産婆に非ずして、分娩其物也と、何となれば是れ偶然の出來事に非ずして、實に進化的過程の必然の結果なれば也。而して舊時代老いて新時代を生み、新時代の長ずるや、更に他の新時代を生む、皆な革命に依

### 社 會 主 義 神 髓

らざるは無し。何ぞ彼の子々孫々の迭に分娩して百世窮極する所なきと異ならんや。

○但だ分娩に難易あるが如く、革命にも亦難易なきを得ず。分娩が時に母體を切開するの要あるが如く、革命も時に暴動を現ずるの已むなきに至るあり。而も是れ決して希ふ可きのとに非ざるや論なし。

○故に母體の組織發達の如何を診し、之が健康を保ちて以て其分娩を容易ならしめんと期するは、産科醫及び産婆の職務也。社會の組織狀態の如何を察し、進化の大勢を利導して以て平和の革命を成さんと希ふは、革命家の識慮也。而して今の社會黨や實に這個社會的産婆産科醫を以て、自ら任とする者に非ずや。

### 社 會 主 義 神 髓



## 社會主義神隨

○夫れ然り革命は天也、人力に非ざる也、利導す可き也、製造す可きに非ざる也、其來るや人之を如何ともするなく、其去るや人之を如何ともするなし、而して吾人人類が其進歩發達を休止せざるを希ふの間は、之を恐怖し嫌忌すと雖も決して之を避く可らず、唯だ之を利導し助成し、以て其成功の容易に且つ平和ならんとを期すべきのみ、社會黨の事業や唯だ如此きを要す、曷んぞ漫に殺人叛亂を以て、平地に波を揚げて快とする者ならんや。

○蓋し前世紀の初め、社會黨の陳吳として起てる者、英に在てはオーエン、佛に在てはカベール、サンシモン、フーリエール、イブラン、獨に在てはワイトリングの徒、其現時制度の害毒を指摘するや頗る痛切に、其理想の實行に着手するや極め

## 社會主義神隨

て熱心なる者ありき、然れども當時社會主義の發達、日猶ほ淺く、研究未だ精なるを得ざりしが故に、彼等の企畫や遂に一種の空想、即ち所謂「ユトピア」たるを免れざりき、彼等が或は、共同生産の工場を起し、或は共同生活の殖民地を拓くや、一に自己の摸型に従つて直に社會を改鑄せんとする者なりき、一日一夜にして直ちに理想の世界を現出せんとする者なりき、彼等は人道の上に立てり、而も未だ科學の基礎を得ると能はざりき、彼等は建設を試みたり、而も未だ自然の進化に従ふ能はざりき、其前後相踵て失敗に歸せしは固より其所也。

○是を以て當時の歴史を瞥見する者、動もすれば曰く、社會黨の運動は一時の狂熱のみ、其企畫はユトピアのみ、到底不

可能の事に屬す、其自ら消滅するは日を期して待つ可き也。是れ一を知て二を知らざる者のみ。夫れ狂熱は冷却すべし、空想は消散すべし、而も眞理は豈に永劫に死せんや。近世社會主義は實に是等ユトピアの死灰中より再燃し來れるに非ずや。

○一八四七年、マルクスが其友エンゲルと共に、有名なる『共產黨宣言書』フュント、カア、ゼ、コン、ミュニ、フ、ト、マ、イ、チを發表して、所謂階級戦争の由來歸趣を詳論し、以て萬國労働者の同盟を呼號してより以來、社會主義は嚴乎として一個科學的教義ドクトリンとなれり、又舊時の空想狂熱に非ざる也。社會黨は既に社會が一種の有機體なるを解せり、又自己腦裡の模型に従つて之が改造を企つる者ある無き也。彼等は歴史の進化を信ぜり、決して一日にして其革命の

## 社會主義神髓

## 社會主義神髓

成功すべきを夢みる者に非ざる也。

○彼等は單に一小組合の共同生活が、必ず社會全體の競争の爲めに蹂躪さるべきを見たり、彼等は世界の形勢と隔絶して完全なる理想郷を單に一地方に建設するの、到底不可能なるを驗せり、是を以て彼等は決して社會全體の調和を破壊するとなくして、着々其主義勢力を擴張し、史的進化の自然に従つて徐々に其抱負政策を實行し、寸を得れば即ち寸を守り、尺を得れば即ち尺を保ち、遂に理想の完成に達せんと欲するに至れり、而して彼等が之を爲すの術如何。

○他なし、彼等は無政府黨に非ず、個人の兇行は何物をも得べきに非ざるを知る、其運動や必ず團體的ならざる可らず、彼等は虚無黨に非ず、一時の叛亂が何事をも成すべきに非

## 社會主義神髓

ざるを知る、其方法や必ず平和的ならざる可らず。然り彼等の武器や、唯だ言論の自由あるのみ、團結の勢力あるのみ、参政の權利あるのみ。於是乎萬國の社會黨は、皆な政治的方面に向つて其運動を開始せり。

○思へ社會主義にして、果して世界の輿論となるを得たりとせよ、社會人民の多數は則ち社會黨員となれりとせよ、而して彼等は普通選舉の制に依て盡く参政の權利を得たりとせよ、而して社會黨代議士は各國議會の多數を占め得たりとせよ、其他市府行政の機關、町村自治の團體、皆社會黨に依て運轉し指導せらるゝに至るとせよ、彼等は自在に社會組織の改善に着手するを得べきに非ずや。

○但だ各國人文の程度、歴史の結果、社會の狀態を異にする

## 社會主義神髓

に従つて、之が改造の順序方法亦自ら異ならざるを得ず。事の緩急、物の輕重、其時と人との宜しきに從ふ可きが故に、其細目は豫め之を決定す可きに非ずと雖も、凡そ参政の權利を多數人民に分配し、婦幼を保護し、教育を無料にし、労働時間を制限し、労働組合を公許し、工場設備を完全ならしむるが如きは、第一着の事業ならずんばならず。而して或は一部より、或は一地方より、或は資本に於て、或は土地に關し、漸次に少數階級の特占の權利、壟斷の利益を減殺して、之を社會人民全體の用に移すの政策を實行し、歩は一步より、層は一層より、進んで而して已むとなくんば、一日一切の生産機關を擧げて、盡く社會の公有に歸する者、豈に難からんや。

○然り社會黨が運動の方針や如此し、而して其實際の功果

成績に至りては、眞に刮目を値ひする者ある也。ラサールが『嗚呼此闇愚の勞働者は、何の時か其昏睡より醒む可き』と嘆息せしは、僅に四十年の前なりき。而して四十年後の今日に於て、獨逸の社會主義者は、既に二百五十萬人を以て算せられ、八十餘人の代議士を有する也。佛國の社會主義者亦實に百五十萬の多きに達し、四十餘人の代議士を有する也。英國の議會や、特に社會黨と自稱するの議員尙ほ少しと雖も、而も同國の二大政黨は近時競ふて社會主義的政策を採用するに至れり。ハーコート曾て議會に演説して、『今や吾人は皆な社會黨也』と公言せる者、決して虚ならざるを見る。若し夫れ各都市の行政は、大抵社會主義者に依て指導せられざるはなき也。其他歐洲列國、北米諸邦、苟くも近世文明の在る

## 社會主義神髓

處曾て社會黨の生ぜざるはなく、社會黨の生ずる處、其勢力の發達は飛瀑の天より下るが如く、主義の擴張は猛火の原を燎くが如きを見ずや。

○夫れ文明の邦、立憲の治下に於て、社會の輿論一たび我に歸し、政治の機關亦我手中に歸するに至らば、兵馬の力も之を如何せんや、警察の權も之を如何せんや、而して富豪の階級亦竟に之を如何ともするとなけん。社會主義的大革命が正々堂々として、平和的に秩序的に、資本家制度を葬り去つて、マルクスの所謂『新時代の生誕』を宣言するを得るは、猶ほ水到つて渠成るが如けん也。

○嗚呼革命よ、如此にして來り如此にして去る。而して吾人に賚賜するに、平和と進歩と幸福とを以てす。予は社會百年

## 社會主義神髓

の爲めに其助成し歓迎すべきを見る、未だ嫌忌し恐怖すべきを見ざる也。

蒲柳之姿。望秋而零。

松柏之質。經霜彌茂。

第七章 結論

○果然、病源は發見せられたる也。謎語豈に解決せられざらんや。

○殖産的革命は社會組織進化の一大段落を宣告せり、産業の方法は、個人の經營を許すべく、餘りに大規模となれる也。生産力は個人の領有を許すべく、餘りに發達膨大せる也。故に彼等は其性質の社會的なるを承認せんとを要求す、其領有の共同的ならんとを強請す、其分配の統一あらんとを命令す、而も聽かれざる也。是を以て競争となり、無政府となり弱肉強食となり、獨占となり、社會多數は是等獨占的事業の犠牲に供せらるゝに至る。

## 社 會 主 義 神 髓

○故にエンゲルは曰く『社會的勢力の運動や、其盲目なる、亂暴なる破壊的なる、毫も自然法の運動に異なるなし。而も吾人一たび其性質を理解するに及んでや、隨意に之を驅役して、以て自家の用を爲さしむるを得る、猶ほ電光の通信を助け、火焰の煮炊に供するが如し』と。然り現時社會が生産機關發達の爲めに利せらるゝなくして、却つて之が暴虐に苦しむ所以の者、一に社會進化の法則に悖反するが爲めのみ。若し一たび其性質趨勢を理解して之を利導せん乎、猶ほ人を震し人を焚くの電光火焰が、吾人必須の利器となるが如けん也。

○今に於て怪しむ勿れ、學術の日に進んで徳義の日に頽るゝとを、生産益々多くして、萬民益々貧しきとを、教育愈々盛

## 社 會 主 義 神 髓

にして罪惡愈々多きとを。嗚呼是れ一に現時の生産機關私有の制度之をして然らしむるのみ。個人をして、今の生産機關を私有せしむるは、猶ほ狂人をして利刃を持せしむるが如し、自ら傷け、人を傷けずんば已まず。

○而して其結果や即ち分配の不公となれり、分配の不公は即ち多數人類の貧困と少數階級の暴富となれり。暴富なるものは即ち驕奢となり、腐敗となり、貧困なるものは即ち墮落となり、罪惡となり、舉世滔々として江河日に下る、洵とに必至の勢ひのみ。

○故に今日の社會を救ふて其苦痛と墮落と罪惡とを脱せしむる、貧富の懸隔を防止するより急なるは無し、之を防止する、富の分配を公平にするより急なるは無し、之を公平に

する、唯だ生産機關の私有を廢して、社會公共の手に移すに在るのみ。換言すれば即ち社會主義的大革命の實行あるのみ。而して是れ實に科學の命令する所、歴史の要求する所、進化的理法の必然の歸趣にして、吾人の避けんと欲して避く可らざる所にあらずや。

○嗚呼近世物質的文明の偉觀壯觀は、如此にして始めて能く眞理、正義、人道に合するを得可きにあらずや、眞理、正義、人道の在る所、是れ自由、平等、博愛の現する所に非ずや。自由、平等、博愛の現する所、是れ進歩、平和、幸福の生ずる所に非ずや。人生の目的、唯だ之れ有るのみ、古來聖賢の理想、唯だ之れ有るのみ。エミール・ゾラ叫んで曰く「社會主義は驚嘆すべき救世の教義也」と。豈に我を欺かんや。

社會主義神隨

○起て、世界人類の平和を愛し、幸福を重んじ、進歩を希ふの志士、仁人は起て、起つて社會主義の弘通と實行とに力めよ。予不敏と雖も、乞ふ後へに従はん。

人生不得行胸懷。雖壽可位殆天也。

社會主義神隨

社會主義神髓

第七章 結語

青天白日處。白暗室。陋屋中。培來。  
旋乾轉地的經驗。自臨深履薄處探出。

社會主義神髓終



青天白日處節。白暗室陋屋中，培來。  
從乾坤的經綸。白臨深履薄處操出。

社 會 主 義 神 髓 終

附 錄

# 附 録

## 社會主義と國家

近時社會主義を駁するの論議多し而して其最も有力にして而して最も普通なる者二あり一は即ち之を目して國家の權力を無限に増大すると爲す者他は即ち之を以て國家の廢滅を意味すと爲す者是れ也二說氷炭雷ならずと雖も而も兩つながら謬れり是れ前者は社會主義を以て國家社會主義と混同し後者は社會主義を以て無政府主義と混同する者なれば也故に予は世間幾多の論客に向つて其社會主義を駁するの前先つ社會主義者が現時の所謂國家なるものに對する態度と社會主義者が理想する國家の如何とに就て一番の檢査あらんとを望まざるを得ず

社會主義の要義が富財の生産と分配とを以て國家公共の業務となすに在るは論なし然れども之を成すや或は現在の國家組織に向つて多少の變更を加

附

錄

へんとする者あり、或は全然根本の改造を要すとする者あり、孰れにもせよ眞正の社會主義者中何人も今日の所謂國家に満足して之に信賴する者あらず、獨逸の社會民主黨の如きは、實に國家の絶滅を希望することを揚言せり、此點に於ては彼等は、一見無政府主義と混同せらるゝの恐れあり、然れども知らざる可らず、彼等の所謂國家なる語は、猶ほ彼等が資本其他の語を使用するが如く、彼等に特有なる學術的意味に於て使用せらるゝ者なることを、換言すれば、彼等が絶滅せんとするの國家は、即ち或一階級を代表せるの國家なることを、或一階級の利益の爲めに他の階級を壓虐して之が利益を篡奪するの國家なることを

獨逸の社會民主黨は其名の示すが如く社會主義者たるのみならず、亦實に民主主義者也、而して其生存する所の國家が極めて非民主的なる事、其事は彼等をして益々其國家に對する憎惡を熾ならしめたり、彼等は現在の國家を憎惡するの甚しきと共に、現在の國家の手に經濟的企畫を委任せんとする國家社會主義に向つて急激の抵抗を試むるに至り、一千八百九十二年の會議に於て

附

錄

彼等自ら其革命的勢力たることを宣言すると同時に、國家社會主義を目して保守なりとして痛罵せり、彼等は謂らく今の國家は「財産及び階級の支配なる現在の社會的關係を維持せんが爲めの組織的權力」に過ぎずと、故に彼等は斯る國家を根本的に絶滅し、彼の「一階級の利益を承認せずして一切平等の利益を増進するの組織を建設せむとを望むもの也、但だ彼等の理想せる一切平等の利益を増進するの組織が國家なる語を附して果して適當なるや否やは、是れ自から別問題に屬す、若し夫れ英國フアドアン黨や米國の社會黨に至つては、敢て國家絶滅を唱ふるなし、是れ怪しむに足らず、彼等の國憲が獨逸に比して大に民主的なるが故に、急激の手段に依らずして能く多數福利の増進を期待し得べきが爲めのみ

蓋し社會主義と民主主義とは、恰も鳥翼車輪の如し、何となれば一は經濟的に一は政治的に多數共通平等の幸福を其向上の目的となす者なれば也、故に眞正の社會主義者たる者は必ずや眞正の民主主義たらざる能はず、專制的國家に在るの社會主義者は民主的國家を建設せんと試み、民主的國家に在るの社

附

會主義者は其國家の更に完全ならんとを望む唯だ其手段の緩急を異にするのみにして皆政治的改革に熱心ならざるはなし而して彼等の目して最も理想に近しとして賛歎する所は實に瑞西の政治的制度也夫の一般國民をして直接に法律の可否を投票せしむるのレフエレンダムや多數の國民に發議の權を與ふるのイニシエチーヴや國民が立法院に於て有する代表者の數の比較上尤も公平なるプロホーショナル選舉法や皆な民主的意義の大に發現せられたるものにして社會主義者の渴仰渴望する所なりとす

如此にして社會主義は深く現時の國家の中央集權の害毒に懲りて地方分權を主張するに至るは自然也彼等は人民の事業をして人民に依て行はしめ若くは人民に近かしめんが爲に多くの公務を中央政府の手より奪ふて地方の自治團體に恢復するの必要を感ず彼等は可及的中央政府の職掌と權力とを削減して國家を以て地方市府町村の自治的集合團體の聯合とし中央政府は唯だ此團體聯合を統一し彼等が共通の利益を公平に按排せしむるの具となさんと欲す彼等は如何なる政治にもあれ如何なる組織にもあれ富財の社會

録

附

共同的生産と其公平の分配を保障することを必ずする者也萬人をして總て其堵に安んぜしめ萬人をして總て十分に其知能を發揮せしむるの地位と機會を保障することを必ずする者也是れ彼等が經濟及教育の事業を以て一に公共の手(國家と云はず)に委せんとする所以にして而して經濟教育の二事を除くの外は決して政治的干渉を喜ぶ者に非る也否な極めて自由放任を主張する事猶ほ今の個人主義者の如き也例せば國教の如きは社會主義とは全然相容れられざるものにして獨逸民主黨が其綱領に於て明かに宗教を個人の私事なる事を宣言せるが如き是也彼等の希望は人をして人を支配せしむるに非ず人をして物を支配せしめんと欲すれば也

カールマルクスと俱に所謂獨逸科學的社會主義の祖師と稱せられたるフリドリヒエンゲルは曰く、『夫れ壓制せらるべき階級なく或階級の支配なく個人の生存競争なきに至らば國家と名くる壓制的權力も亦必要なからん而して之に代て起る者は社會全體の代表者としての國家也然れども此國家や唯社會の名に於て生産の機關を有するに過ぎず唯此一專國家の最初の職務

録

にして、亦最後の職務也、社會關係に於る國家の干涉は、一層は一層より漸々無用となつて消滅するに至るべし」と

然り、社會主義者が理想とする國家は唯だ如此きのみ、彼等は決して國家萬能の主義に依て個人の自由を没却せんとする者に非ず、而も亦全然社會の秩序を無視して、其團結組織を破壊せしめんとするものに非ず、要は多數人の幸福のみ平等の利益のみ、世の社會主義を批評する者宜しく此點に留意せよ、若し夫れ社會主義制度が立君政治と兩立するや否やは、自ら別問題也

### 社會主義と直接立法

予は社會主義の見地より、世界萬邦の社會主義者と同じく、我日本に一日も早く一種の『レフエレンダム』と『インシエーチーヴ』の實施を切望するものである、一寸適當の語を思ひ付かぬので、假に前者を直接投票後者を直接發議權と譯する

凡そ世間に馬鹿げたと云ひ、無意味と云つても、日本國民の所謂參政權なる者

### 附

### 録

### 附

### 録

ほど無意味に馬鹿げた代物は有るまい、是が普通選舉でも行はれて居るなら猶可なりだが、今の日本は納稅資格などといふ時代後れの愚などをして居るので、選舉有權者は四千五百萬の國民中百萬内外に過ぎぬではない歟、夫も公<sup>ゴ</sup>平選舉法でも採用されて、此百萬人の有權者が盡く代表者を出し得るならば猶可なりだが、大政黨以外の候補者は大抵落選させらるゝので、眞に代表者を出し得る者は、百萬人中僅に五六十萬人に過ぎぬのではない歟、夫も彼等五六十萬人の意思だけでも確かに議會に代理され遂行さるゝなら獨可なりだが、其代表者は議會に入るを得ると同時に、全く政府の奴僕となつて仕舞ふのではない歟、換言すれば日本人で參政權を有する者は國民中の極少數で、而も其少數が參政權を行ふのは、唯だ議員の投票を投票箱に投入する一刹那、其刹那だけに止まつて、後は煙散霧消するのではない歟、此爲躰で有りながら國民の參政權で候などは、呆れて物が云へぬである、參政權てふ名詞にして若し靈あらば、蓋し噤然として笑ひ、噉然として泣くであらう

抑も政治の本義を推擴めて其極致に至つたならば、國民自身が直接に政權を

附

執り行ふのが當然だが、但だ實際社會の狀態が此に至るを許さない、少數官吏、少數議員に彼等の代理を頼むといふのは、今更云ふまでもないのである。故に予は、否な多くの學者は歐米諸國の代議制度に對してすら之を政治の極致に遠いとして極めて不平不満足である、だから彼等は國民參政の効果を舉ぐる方法を講ずるのに、日も亦足らぬ有様である、況して我日本に至つては參政の功果どころか、此不幸不満足なる普通の代議制度にすら追付かないで、實際は君主專制、寡頭政治の蠻域に、蠢めき廻つて居るのである、是れ我政治の進歩發達を希ふの上に於て、大に考慮すべき所でない歟

然らば如何にして眞に國民參政の權利を實功あらしめ、如何にして政治の本義に一步なりとも近くべき歟、此點に於て普通選舉は無論急要である、公平選舉法も無論急要である、而も是ては未だして、彼等の參政權の實功は、矢張其投票を投ずる刹那に過ぎぬので有る、是に於て百尺竿頭一步を進めて國民の直接投票、直接發議權を主張せざるを得ないのである

錄

直接投票といふものは、議會で決議した重大なる法案の可否を、更に國民の意見に問ふて、其賛成を得て初めて法律とするのである、直接發議權は國民多數

附

の連署を以て重大なる法律の改廢或は制定を發議し、矢張國民の投票に依て採決するのである、此兩者あつて始めて國民が政治に參與するの實があり、國民の意思を代表しない官吏と議員との横暴を制し得るのである、而して歐米諸國中此兩者を實行して居るのは、瑞西聯合共和國である、余は無論瑞西の制度を其儘採用せよといふのではないが、併し其方法は、大に參考とするに足るのである、

錄

孰れの國でも兩院を通過した法律は、其規定した日時から直ちに効力を有するのだが、瑞西國では左様は行かぬ、緊急なる性質の者、其他或特種の者を除くの外は、其法案を九十日間遍く各州に掲示して、若し其期限内に國民三萬人の請願か、若しくは八個の州の政廳より該法案の直接投票を要求して來た場合には、即ち直接に國民をして可否を投票せしめねばならぬ、最も是迄行はれた直接投票は州政廳より要求したのではなくて、常に國民の請願に由つたのであつた、三萬人といへば、全國民の約百分の一、有権者總數廿分の一である、斯く

附

て其請願者の記名が定數に充ちたならば、即ち聯合各州に於て同日に投票を行はしめる、投票期日は、命令を發した日から、四週間後でなければならぬ、一千八百七十四年から一千八百九十三年に至る間に、揭示せられた法律命令百六十四件中、直接投票を要求せられたのが十八件、其中十二件は、否決せられた、即ち直接投票に掛けるのが一割内外で、其多くは否決せられたのである。

直接投票は獨り聯邦議會の法案に就てのみならず、各州でも夫々州議會の法案に就て行つて居るのである、尤も各州で多少制度を異にして重大の法案を盡く直接投票に問ふのもあれば、州民多數の要求を待て始めて之に付するものもある、後者では請願の記名提出の期限は通例三十日内外で、請願者定員は其州有權者の五分の一乃至十二分の一である。

爰て吾人の最も注意すべきは、彼等國民及び州民が直接投票を要求するのは、決して一時の感情に走るのではなくて、其嚴格に且熱心に自己の權利を行ふとである、而して政府も議會も謹んで其命令に服従するので、日本の如く民意を度外して善い加減に扱ふとは出來ぬのである。

録

附

直接發議權も亦久しく聯合各州に用ゐられて居る、州民が或法律の改廢若しくは創定を希望する時は、多數の賛成を得て其理由を具し、州の議會に掲出する、其定員は直接投票者の割合と略同様である、夫て議會は一定の期間に、或州は二ヶ月之が成案を作り、同時に議會も又別に議會の案と意見とを附して州民の直接投票を命じ、其採決に従つて直に法律となるのである、於是て實際彼等は直接に立法の權利を堅く把持し居るものである、而して是も亦た極めて嚴格に慎重に行はれるのである、此制度は古來州にのみ用ゐられて居たが一

千八百九十一年に至つて聯邦の憲法修正に用ひらるゝこととなつた、其制に従へば若し五萬の國民が憲法に於て或條章の制定を要求すれば、聯邦議會は直ちに其希望を討究して一の成案を拵へ、之を直接投票に問はねばならぬ、又其要求の賛すべきものでなかつたならば、先決問題として憲法の改正すべきや否やを直接投票に問ひ、其採決を待て再び細目の成案を國民に問ふのである、又人民より詳細の成案を提出した場合には、議會は之に賛するか或は別に異つた案を出すか、或は全く反對の案を出して、共に國民の決定に委す

録

ることが出来る。但し議會の案は其請願書の受領の後、一ヶ年間に作らねばならぬ。其時限を過ぎたら請願の案に同意した者となつて、投票に附せられる。此方法で聯邦の憲法は屢ば修正せられ、大に同國政治の進歩と發達に資したのである。

附

我日本に於ては憲法修正の發議權は獨り天皇陛下の持し玉ふ處である。而して現在憲法の修正せられない限りは、我國民が憲法修正に關する發議は元より、一般法律に對する直接投票權、及び直接發議權をも得られないのは承知である。予は決して憲法の紛更を試むるが如き所存は微塵もない。

録

併しなから、現時の國民參政權がノンセンスであるのは確かである。政治の本義が國民直接の政治に在るのは確かである。而して直接投票と直接發議とが、政治の本義に一步を近づくものたるも亦確かである。

試に思へ、若し我國民が早く直接投票と直接發議との權利を得て居たならば、藩閥の政治家は能く今日の運命を保つたであらう歟。無法の軍備は能く擴張せられたであらう歟。亂暴なる増税は能く承諾せられたであらうか、高野問題

附

は今はまでも未定のまゝで残つたであらう歟。癩毒問題に直訴の必要があつたのであらう歟。凡そ是等の例を見れば、如何に我國民の權利が全く蹂躪せられ、輿論が全く度外視せられ、一國の政權が一部少數の手に竊まれて居るが爲めに、多くの不正と多くの非義と、多くの損害と多くの醜聞が被むらされたか、と解るであらう。我日本の國民は果して永く此の状態に堪ふべきである歟。堪へ得ることが出来るであらう歟。

録

若し日本の政治が果して君主專制寡頭政治の域を離れて將來益々進歩し發達し行くものならば、何時か一たび這箇の制度を採用するの氣運に際會せずには居らぬ。斯る氣運は如何なる經過で熟する歟。又は如何なる手續で事實に現出して来るかは是れ自ら別問題である。但だ此氣運に一たび際會すると極つた以上は、予は一日も其速かならんとを希望に堪へぬ。而して若し此二箇の直接立法の方法が行はるゝに至つたとすれば、社會主義の目的は其大半を遂げたものである。



社會主義と國體

先頃某會合に於て、社會主義の大要を講話した時に、座中で第一に起つた質問は、社會主義は我國體と矛盾しはせぬ歟、といふのであつた、思ふに社會主義を非とする人々は皆此點に疑問を持て居るらしい、否、現に公々然と社會主義は國體に害が有るなどと論じて居る人も有るといふことだ、『國體に害が有る』の一語は實に恐ろしい言葉である、人でも主義でも議論でも、若し天下の多數に『アレは國體に害がある』と一たび断定せられたならば、其人若くは其主義若くは其議論は全く息の根を止められたと同様である、少くとも當分頭は上らぬのである、故に卑劣な人間は議論や理窟で間に合はぬ場合には手ツ取り早く『國體に害あり』の一語で以て其敵を押し伏せ様と掛るのだ、そして敵とする物の眞實狀如何を知らぬ人々は『國體に害あり』説に無暗と雷同する者が多いので、此卑劣の手段は往々にして功を奏し、アタラ偉人を殺し、高尚な主義を滅し、金玉の名論を湮めて仕舞ふとが有る、故に『國體に害あり』といふ

附

錄

叫び聲が出た時には、世人は之に耳を傾けるよりも、先づ其目を拭ふて、事の真相を明かにするのが肝要である

幸か不幸か、予は歴史に暗く國法學に通じないので、國體とは如何なるものであるかてふ定義に甚だ惑ふ、又國體なるものは誰が造つたものかは知らぬ、併し普通に解釋する所に依れば、日本では君主政體を國體と稱する様だ、否、君主政體と云ふよりも、二千五百年一系の皇統を名ける様だ、成程、是は古今東西類のない話して、日本人に取ては無上の誇りてなければならぬ、國體云々の言葉を開けば、萬人均く心臓の鼓動するのも無理はないのだ、所で社會主義なるものは、果して彼等の所謂國體、即ち二千五百年一系の皇統存在すてふと、矛盾衝突するのであらう歟、此問題に對して、予は斷じて否と答へねばならぬ、社會主義の目的とする所は、社會人民の平和と進歩と幸福とに在る、此目的を達するが爲めに社會の有害なる階級制度を打破して仕舞つて、人民全體をして平等の地位を得せしむるのが社會主義の實行である、是が何で我國體と矛盾するであらう歟、有害なる階級制度の打破は決して社會主義の發明ではな

附

錄

附

くて既に以前より行はれて居る、現に維新の革命に於て四民平等てふ言が宣  
 言せられたのは、即ち有害なる階級の打破ではない歟、そして此階級の打破は  
 即ち我國體と矛盾どころ歟、却つて能く一致吻合したものではない歟  
 封建の時代に於て尤も有害なる階級は、即ち政權を有する武門であつた、而し  
 て此階級が打破せられて社會人民全體は政治上に於て全く平等の地位と權  
 力を得たのである、社會主義は即ち維新の革命が武門の階級を打破した如く、  
 富の階級を打破して仕舞つて、社會人民全體をして、其經濟上生活上に平等の  
 地位と權利を得せしめんとするのである、若し此階級打破を以て國體に矛盾  
 するものと云ふならば、維新の革命も亦國體に矛盾すると云はねばならぬ、否  
 な憲法も、議會も選舉も皆な國體と矛盾するものと言はねばならぬ、  
 社會主義は元より君主一人の爲にするものでなくて、社會人民全體の爲めに  
 するものである、故に進歩したデモクラシーの主義と一致する、併し是でも決  
 して國體と矛盾するとは云へぬ、何となれば君主の目的職掌も亦社會人民全  
 體の爲めに圖るの外はないのである、故に古より明王賢主と呼ばれる人は、必

録

附

ず民主主義者であつたのだ、民主主義を採られる君主は必ず一種の社會主義  
 を行つて其徳を謳はれたのだ

西洋の社會主義者でも決して社會主義が君主政治と矛盾撞着するとは斷言  
 せぬ、君主政でも民主政でも、社會主義を執れば必ず繁榮する、之に逆へば衰へ  
 る、是は殆ど定まつた數である、此點に於てトーマスカップが其著「社會主  
 義研究」中に説く所は、最も吾人の意を得たものである、カークアップ曰く、社會主  
 義は進歩した民主主義と自然に吻合するのである、けれども實際上に其運動  
 の支配が必ず民政的でなければならぬといふの道理は毫もない、獨逸などで  
 はロドヘルタスの計畫の様に、帝王の手で遣れぬとはないのである、ラッサ  
 ルの理想は是である、ピスマルクも或程度まで是を遣つた、實際富豪の階級に  
 對する交讓(コムプロマニス)に厭き果てた帝王が、渙然洒然として都鄙の勞働  
 者と直接抱き合つて一個の社會主義的帝國を建設するのは、決して難事では  
 ないのである、斯る帝國は材能ある官吏を任用し社會改善に熱心なる人民てふ  
 軍隊に擁せられて益々強盛に赴くであらう、そして若し能く時機が熟したな

録

らば帝王彼自身に取ても、溢々ながら資本家階級の御機嫌を取つて居るよりも、此種の政策は遙かに宜しきを得たものと云はねばならぬ』

カーカツプは更に列國競争に就て論じて曰く『列國の競争は、少くとも近き將來までは益々激烈に赴くに相違ないが、此點に於ても、人民が先づ其社會組織の調和を得るといふとは、實に莫大の利益である。先づ多數勞働者の靈能を發達させ、熱誠堅固の心性を養ふて、即ち自由教育を受けたる人民を以て團結した國民を率ゐるの國は、彼の不平ある、墮落したる無智なる貧民を率ゐる所の資本的政府に對して、今日の科學的戰爭に於て、必ず大勝利を占めるであらう。是れ恰も第一革命の際に於ける佛蘭西軍隊の熱誠に加ふるに、今日の完全なる學術を以てしたると同様の結果である』云々、故に能く社會主義を採用するの帝王、若くは邦國は、即ち彼の一部富豪に信頼する帝王、若くは邦國に比して、極めて強力なるものである。社會主義は必しも君主を排斥しないのである。併し繰返していふが、社會主義は社會人民全體の平和と進歩と幸福とを目的とするのであつて、決して君主一人の爲めに圖るのでない、故に朕は即ち國家

附

録

附

録

なりと妄言したルイ十四世の如き極端な個人主義者は、元より社會主義者の敵である、衆と階に樂むと云つた文王の如き社會主義者は、喜んで奉戴せんとする所である、而して我日本の祖宗列聖の如き、殊に民の富は朕の富なりと宣ひし仁徳天皇の大御心の如きは、全く社會主義と一致契合するもので、決して矛盾する所ではないのである、否、日本皇統一系連綿たるのは、實に祖宗列聖が常に社會人民全體の平和と進歩と幸福とを目的とせられたるが爲めに、斯る繁榮を來したのである、是れ實に東洋の社會主義者が誇りとする所であらねばならぬ、故に予は寧ろ社會主義に反對するものこそ、反つて國體と矛盾するものではない歟と思ふ

社會主義と商業廣告

維新後三十年間我日本の社會に於て、凡そ進歩發達したといつても、商業廣告程進歩發達したものはあるまい

維新以前の商賣の廣告といつたら、ケチな木板摺の引札だの或は四辻に貼紙

附

をするのだ。又小間物屋や化粧品などは、時々人情本の作者に頼んで、其著述の中で謳つて貰ふ位が關の山であつた。夫から京阪では東西屋と名づけて、東京でも折々見かけるが、橋木を拍て觸れ歩くのがあつた位ひだ。然るに今日に至つては如何だ。右を向ても廣告、左を向ひても廣告、廣告が鉢合せをして推すなくと騒いで居る。維新以前の所謂花の大江戸は、忽然として化して廣告の東京となつた。赤本に一行二行の寄生蟲であつたのが、今や新聞雜誌書籍の前後に大威張で乗つかつて、甚だしきは肝心の記事よりも、廣告のページの方が多いので、雜誌に廣告があると云ふよりも、廣告に雜誌があると云ふ方が適當であるやうだ。斯く獨り廣告の分量澤山になつたのみならず、其技術手段に至つても、實に驚く可き發達をなした。否、現に益々發達しつつあるのである。斯様な進歩發達は、果して何に原因するであらう歟。又其社會の上に影響する利害如何であらう歟。又其利害の結果を如何に處分し行くべきである歟。是は當然起るべき問題である。否、な起さねばならぬ問題である。否、頗る面白い問題である。予の考ふる所では

錄

附

第一廣告の目的原因は、單に其商賣や品物を世間に吹聴し報知するといふのに止まらぬ。是れは注意すべき點である。彼等の目的は實に、自身の商賣ビツヂを維持し擴張すると同時に、他人の商賣販路も奪ふのにあるのだ。是は全く今日の經濟組織が自由競争の組織であるので、同業者との競争に打勝たねば立行かないから起つたのだ。廣告は單に報知の術也と思つたら大に間違ふ報知した上に、他人の華主を奪ふて、競争に打勝つと云ふ必要が有るので有る。

論より證據で競争の激しい商品ほど廣告する人が多いのである。例へば賣藥、煙草、麥酒、石鹼、齒磨、化粧品、小間物などいふ、孰れの店でも大抵同様の品物で、誰でも模擬が出来る競争の品物は、従つて廣告の優劣で、其商賣の優劣を争ふのだ。だから廣告の盛大なる度は、自由競争の激烈の度を示すのバロメートルである。左すれば甲の雜貨商が今年一千圓の廣告料を拂つたと聞けば、乙の雜貨商は、翌年一千五百圓を投じて華主を争ふ。ヌルと甲は更に二千圓を投ずるといふ譯で、日に月に廣告料が多くなる。又其手段に至つても、甲が墨繪の看板を出せば、乙が彩色繪の看板を出す。又乙が十行の廣告をすれば、甲が廿行といふ

錄

風に競争又競争で今日の進歩と發達を來したのである、何のとはない、列國の軍備の擴張と同様である、命限り根限り、資本の續く丈け双方で増して行くので、殆ど底止する所を知らぬのだ、現に有名なるピアスソープの如きは資本の三分一以上廣告料に投じて居る、其所で此廣告の競争が社會に及ぼす利害如何と見ると廣告の利益是は云ふまでもなく何人も感じて居る所、第一に需用者の便利、第二販路の擴張、従つて生産も多くなつて商工業が發達するといふのである、然るに翻つて其弊害の方を見ると、實に悚然として恐るべき者がある、廣告の弊害は凡そ三つに大別せられる

一は自然の美を害する事、美を愛すると云ふ事は、人間の極めて高尚なる性質で、天然の美景は、此高尚なる品性を養ふに尤も必要の物である、殊に近世文明の弊として、天下萬人が盡く物質的の利益に狂奔するの時に於ては、之が矯正の爲めに美術心の涵養は益々急切を感ずるのであるに拘はらず、近頃の廣告は、到る處に俗惡極るペンキ塗の看板を立て、天然の美景を無殘に破壊して行くのである、讀者は平生東京を一步踏出せば、是等の多くの例證に接するで

附

録

附

録

あらう、常に高尚なる美術を見、音楽を聞けば、自ら高尚なる品性を養ひ得るに反して、常に鳥獸の虐殺を見、若くは行ふものは、自ら殘忍になる、小鳥の聲を聞て、歌を詠みたいと思ふ人もあれば、直ぐに獵銃を持出したくなるものもあるを考へれば、此廣告が天然の美景を損じて、幾十萬の人が之を見る毎に、ア、嫌だ、といふ不快の感を催す時から、後には平氣になるまでに如何に國民の品性を下等にしたか解らないのだ、曾て村井商會が彼明媚なる京都の東山へ持て居て、サンライスの廣告を立てたことがある、是は畏くも離宮からも目觸りになるといふので、取外したが、東山にサンライスと來ては如何に利の外は見ぬ商人とは云へ、野卑といふ事は通り越して、實に殘忍ではあるまい歟

第二は道德を害し、風俗を害する事、前に云つた通り廣告の目的が同業者との競争に打勝つに在る以上は、報知吹聴のみでは濟まぬ、出來得る丈け華主を自分の方に引付ける様に試みねばならぬ、そして競争が激烈なるに従つて、其手段方法も、正とか不正とか云つては言られぬ、誘惑でも、欺罔でも構はず遣付け、實に至らざるなしである、試に彼賣藥の功能書を見よ、功能神の如しとか禮

狀如山とか是さへあれば醫師も病院も全く不用であるかの如く思はれるのだ、夫から甚しい猥褻の文章や圖畫などを掲げて、青壯者の心を鑠かそうとするのがある、其道德を害し風教を害するとは、實に一方ならぬので、手段方法が巧妙なればなる程、弊害も亦多いのである、併し以上三種の弊害は個人の心得で多少の防ぎも出来るのであるが、第三の弊害に至つては社會をして非常の損失を受けしめて居るのが有る

外でもない社會の富と勞働の浪費である、社會の富が廣告の爲めに浪費さるゝのは實に莫大の額である、或人の調べに依れば、米國で一年間に廣告に費す所は五億萬弗の多きに達すといふと、即ち十億萬圓で、日本政府の歳計の四倍に當る、其中、正當の報知吹聴は五百萬弗、即ち一千萬圓あれば足りるので、其他は全く競争の爲めに餘計な手段方法を要する爲めに費すのだ

日本は元より斯くまでには至らぬが、併し日本の富に比較しては實に驚く可き多額を抛つて居る、予は未だ精密なる統計は造り得ないが、一寸勘定した所でも、毎月東京府下の新聞のみでも、七萬圓内外、大阪のみでも三萬内外の廣告

附

録

附

録

料は拂はれて居る、即ち一ヶ月に十萬圓である、夫れから各地方の新聞のみに一ヶ月十萬圓と云ふ金だ、夫れから雑誌廣告、看板廣告、引札、樂隊、御馳走廣告などの總べてを合併したならば、日本商業は一年間に三百萬圓の廣告料を支出して居るといふことは、優に斷言することが出来るのだ、そして此額は月々歳々に驚くべき比率を以て増加して居るので、然らば即ち此一ヶ年三百萬圓の大金は果して如何なる所から湧き出るのであるか

此大金が商人の懐から出ると思つたら、夫こそ大きな誤謬である、言ふ迄もなく、彼等は此廣告料を商品の代價の裡に見積つて居るので、吾人は實に一本の卷煙草にすら多少の廣告料を拂つて居る、商品の代價は正當の定價よりも確かに夫れ丈け高くなつて居る、社會人民は夫れ丈け余計な富を作つて彼等に支拂つて居る勘定ではない歟

社會には現に多くの貧民が有る、若し一戸五口の貧民を一年三百圓で養い得るとしたならば、我等が年々廣告料の爲めに費す所の三百萬圓の大金を實に五萬人の貧民の衣食を支へるとが出来るではない歟、一方に其日の煙に逐は

れて居る貧民が年々増加するにも拘らず、一方に社會の富を無益に使ひ捨てる額も斯く年々に増加するのは、獨り社會の損失のみでなく、抑も人道の許す所であらう歟

如此く多額の富の浪費に加へて、廣告の競争の爲めに耗らす天才、技術、勞力も亦莫大の額である。是等の能力を生産的に若くは高尚なる事業の爲めに使つたら、如何に社會全體の爲めに利益を與へるであらう歟。是れ皆經世家の深く思ひを致すべきの點である

以上廣告より生ずる弊害の矯正策に就ては、未だ日本では講究をした人はないやうだが、歐洲では以前から大分議論が喧しいのである。現に或國では廣告に課税して、無暗な膨脹を制裁せんとしてゐるものもある。英國などでも廣告が天然の美景を損するのを憂へて、商工局の許可を得なければ、看板を建てることを許さぬやうにしやうといふの意見がある。是も一策には違ひない。現時の如く全然放任して置くには優るに相違ない。併し此處は絶景だから許可しない、那處は勝地でないから許可しやうといふ如き美景の區別を、美術家でもない商工

附

録

附

録

局に鑑定を頼むといふのは、ちと筋違ひではあるまい歟。殊に斯様の干涉は、得て弊害が伴ひ易いので、尤も注意を要するのみならず、唯だ天然の景色保存といふ丈けて、全轉の弊害矯正は出來ぬのである。又課税論の如き、國庫の歳入を増すと云ふなら、兎も角も、決して廣告減少の目的は達せられぬ。若し廣告が課税せられたなら、夫丈け品物の値を高くするのみである。競争者が多くて其競争に打勝ねばならぬ必要がある以上は、又打勝つべき唯一の手段が廣告である以上は、如何に重税でも止める譯には行かぬのだ。廣告を止める時は、即ち破産の時であるのだ。故に課税の結果は品物の代價騰貴に過ぎないのである。故に廣告問題眞個の解決は、即ち是等の弊害を一掃しやうと云ふのには、課税も姑息、商工局の認可權も姑息である。唯だ彼等商人をして廣告の必要をなくせしむるより外はない。此廣告の必要をなくするのは、即ち自由競争の經濟組織を廢するに在るのだ。前に述べた如く、廣告は一に自由競争の發生物で、競争の激しい品物ほど廣告が盛んだ。試に見よ、郵便の如き電信の如き競争がないので、廣告に金を費す必要がない。従つて其手数料も廉いのである。然るに若し郵

附

便や電信が私設會社の事業で競争したならば、彼等は必ず本會社の郵便は便利だとか、電信の文字が確實だとか、配達が速かだとか、廣告して、頻りに自分の會社の切手を澤山賣らうとするに違ひない、其結果は今の三錢の切手も或は四錢五錢位に引揚げて、廣告料を見積るといふ勘定になるであらう、唯だ彼等は社會の公有で、競争がないから、正當の報知以外には廣告をせぬのである、鐵道でも汽船でも競争のない所には誇大の廣告はしないのだ、煙草でも石鹼でも、賣藥でも、皆な同一の道理でなければならぬ

如此く廣告の原因は競争であるが、競争の原因は何かといへば、即ち資本と土地の私有である、個人が銘々に其私有の資本と土地で儲けやうとするから起るのだ、故に社會全體が土地と資本を共有物にして、一切の生産の事業も總て共同でするといふとにしたならば、即ち社會主義を實行したならば、自由競争から生ずる弊害は、全く消えて、品物は廉くて澤山で、人間の生活も豊かになつて、働く時間も少くなつて、萬人の平和のみならず、目下廣告の競争に心を苦しめて居る商人資本家等も肩を休めて大に氣樂になるであらう、是が本問題の

録

根本的解決法である

社會主義と婦人

婦人の性は皆な僻めりと斷じ、女子は養ひ難しと嘆じ、婦人は成佛せずと罵り婦人を眼中に置くは眞丈夫に非ずと威張れるの時代に比すれば、近時婦人に關する研究論議の日に益々其盛を致し、甚しきは則ち専門婦人研究者の肩書を有せる文人をすら出せるが如き喜ぶべきの現象たるに似たり、而も仔細に其研究の目的方法を檢し來るに及んでは、未だ吾人の希望に副はざるもの多きを覺ゆ

吾人は婦人の生理的及び心理的特性を剖拆して微を穿ち細に入れる多くの文士と著作とを見たり、吾人は婦人平常の秘事陰事を爬羅剔抉して眼あたり之に接するの感あらしむるの多くの文士と著述とを見たり、吾人は婦人の短所缺點及び其罪惡を鳴らして殆ど完膚なからしめたる多くの文士と著述とを見たり、吾人は婦人の運命の不幸と境遇の悲惨とを説て一字一涙なるの多

附

録





附

録

し、多くの悲惨なる境遇に陥るとを怪まんや、而して更に見よ現時の社會は何が故に婦人を殘暴凌虐するの爾く甚しきや、此れ見易きの理也、何となれば今の社會や社會協同の社會に非ずして自由競争の社會也、自他相愛の社會に非ずして弱肉強食の社會也、故に人々曰く、汝我を殺さずんば我汝を殺さんと、然り人は生きざるべからず、生んと欲して競争せざる可からず、競争するの極他を殞さざる可らず、他を奪はざる可らず、國と國との間然り、人と人との間然り、男子と男子と、女子と女子との間然り、何を男子の女子を器械となし、奴隷となすを怪まん、兵士が國家の犠牲たるが如く、労働者が資本家の犠牲たるが如く、女學生も女工も藝妓も、甚だしきは細君も、皆な男子が個々競争の利益の爲めに犠牲に供せられずんば已まざるは、是れ今日の社會に於て、實に必至の勢ならずんばあらず

故に二十世紀の婦人問題や、是れ實に重大なる社會問題也、而して是を解決する、先づ婦人をして其奴隷の境より救ふて、彼等をして平等の人間たらしめざる可らず、其知識と財産とに於て獨立を得せしめざる可らず、而して之を爲す

附

録

唯だ現時社會の自由競争の組織を變じて、社會協同の組織となすに在るのみ、他人を犠牲とする事なくして、獨立するを得るの組織と爲すにあるのみ、此れ即ち社會主義の實行也

吾人の社會主義を唱ふるや、或人曰く、汝土地財産の共有を欲す、人の細君も亦共有となさんとするかと、嗚呼、是何の意ぞ、是れ亦實に婦人を以て貨物と同視する舊思想也、社會主義の理想は細君を以て共有たらしめざると同時に、其良人の専有たるをも許さざる也、人は平等也、婦人も亦平等の人間也、他人の所有物たる可らず、彼を所有するものは、即ち彼自身ならんのみ、而して婦人も亦社會全體の知識財産の平等の分配に與つて、以て個人性の獨立を全ふせん、如此にして婦人問題は始めて解決せらるゝを得べくして、決して彼の小説の賣れんを求め、新聞雜誌の賣れんを求むるに依て解釋するを得可からざる者也

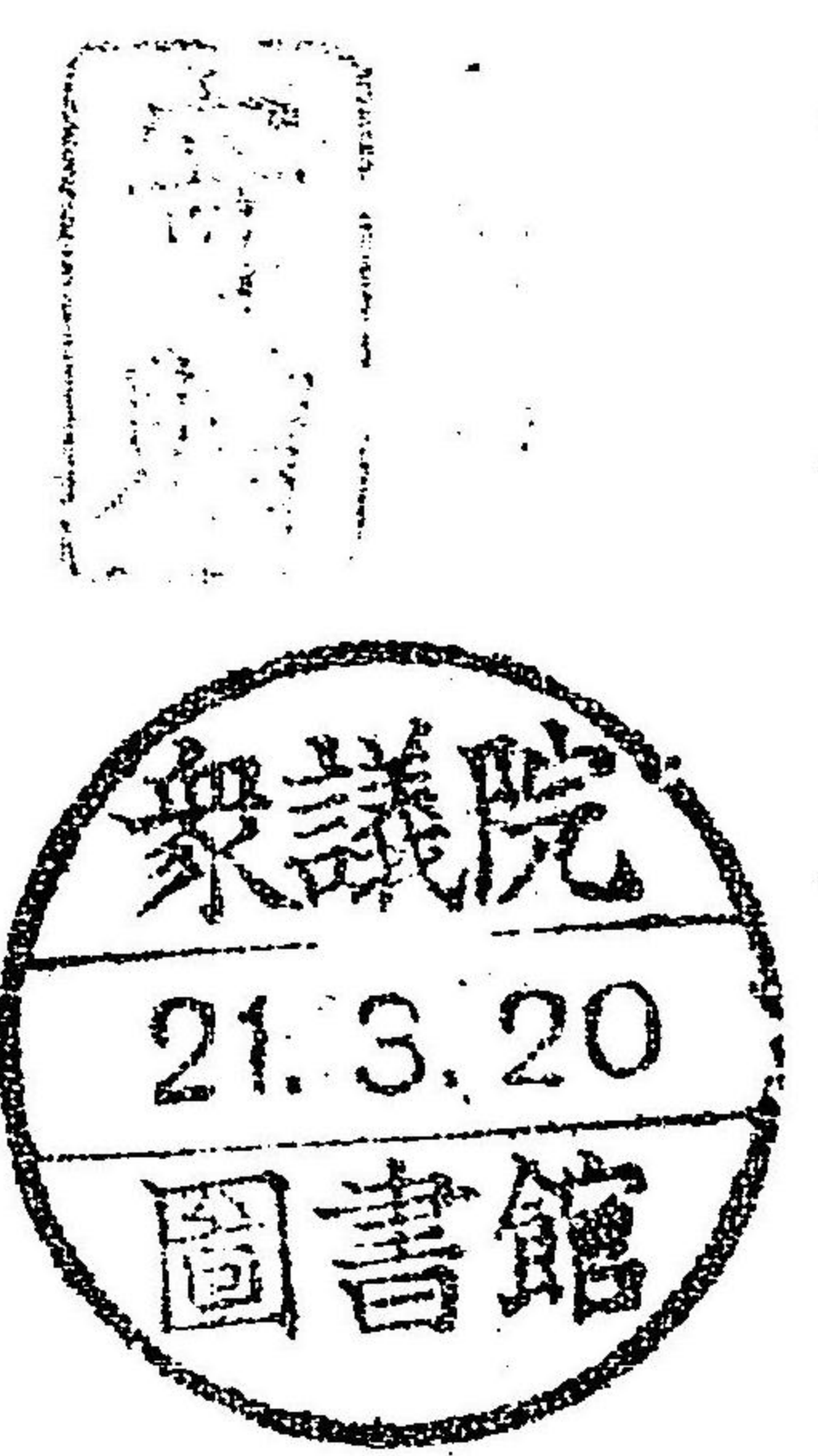
附

録終

3720  
75

53377

立言者。未必即成千古之業。吾取其有千古之心。  
好客者。未必即盡四海之交。吾取其有四海之願。



明治三十六年七月二日 印刷  
明治三十六年七月五日 發行  
明治三十六年七月廿五日 再版發行  
明治三十六年九月五日 三版發行

定價金三十錢



著者

幸徳傳次郎  
東京市本郷區根津西須賀町八番地

發行者

荒川千代三  
東京市京橋區弓町廿一番地

印刷者

石川金太郎  
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所

株式會社 秀英舍  
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

發行所

東京市京橋區  
弓町廿一番地

朝報社

